

フランス語の直接目的属詞構文：動詞 *juger* の事例

敦賀 陽一郎

## 序論

1. 分析の基本的枠組み
2. 資料体
3. *Trésor* (1983), DUBOIS, DUBOIS-CHARLIER (1997) の分類
4. *juger* の構文
5. 直接目的属詞構文の問題点

## 結論

## 序論

フランス語文法で属詞 (*attribut*) が話題になるのは典型的には属詞動詞 (*verbes attributifs*) 構文 (この代表は *être*) の *Max est content* のような場合である。この場合 *être* に後続の形容詞 *content* が述辞 (*prédicat*) とされ、主辞 *Max* の「特徴付け, 特質, 状態, 範疇」, 等を表現するとされる (cf. RIEGEL et al. (2009), p. 419)。構文の形式上は *être* が中心であるのに、上のようになすのは機能的, 意味的要因が尊重されているからである (属詞動詞構文の分析は別の機会に譲る)。

これに対して *On juge Max compétent* のような直接目的属詞構文についてはどうであろうか。直接目的の属詞とされるものの定義も通常は上の属詞動詞構文との関係でなされることが多い。つまり、直接目的 *Max* とその属詞 *compétent* との関係は *Max est content* での主辞 *Max* と属詞述辞 *content* との関係と同じであるとされる (cf. *ibid.*, p. 430)。更に、*On juge Max compétent* は *On juge que Max est compétent* からの派生の結果であるとされるようなこともある。

このような分析の根底にあるのは十分厳密には定義しにくい意味解釈であろう。上の直接目的属詞構文の文型的特徴づけは  $N_0$ -V- $N_1$ - $A_2$  ( $N_0$ : 主辞名詞, V: 述辞動詞,  $N_1$ : 直接目的名詞,  $A_2$ : 属詞形容詞) ということになる。  $N_1$  と  $A_2$  との関係は「 $N_0$ -V- $N_1$ - $A_2$  という下位クラスの動詞構文に所属する」という事実によって十分に表現されているはずである。つまり、これはかなり特殊な構文クラスで、これに所属する動詞は限られている。また、この構文が成立するのは  $N_1$  と  $A_2$  が両立する (*compatible*) 正にこの構文の動詞の構文組織力によってである。つまり、

$N_1$  は  $V$  を限定し、 $A_2$  もまた  $V$  を直接に限定し、 $N_1$  と  $A_2$  は等位・並列関係なしに  $V$  に対して両立している。 $N_1$  と  $A_2$  との間の統辞上の両立関係とその意味関係は  $V$  を通して保証されているにすぎない。

また、*que* つきの直接目的補足節との関係で言えば、*Max juge inutile qu'elle étudie* のような文も出てくるが、これはどう解釈すべきであろうか。この文は範列的には  $Max_0$  *juge*- $N_1$ -*inutile* で  $N_1$  の代わりに *qu'elle étudie* が入ったものであるが、\* $Max_0$  *juge que [qu'elle étudie]<sub>1</sub> est inutile* の結果とするのが自然であろうか。このような派生で問題になるのは、両立する一次機能項の数（第一文では *Max*, *inutile*, *qu'elle étudie* の三つに対して、第二文では *Max* と *que [qu'elle étudie] est inutile* の二つ）の違いと二つの *juger* の記号内容の同一性ということになる。

更に、直接目的属詞機能を担う典型的な品詞は形容詞と名詞であり、この機能は基本的に省略不可能である（直接目的の名詞の省略は起こりうる）。しかし、直接目的属詞の特徴づけの基本が上記のように意味的色彩が強いので、前置詞句もこの機能を担うとする解釈がなされることが多い。例えば、*Max juge ce travail sans importance* において *sans importance* は *ce travail* の属詞である、というように。これは意味解釈が基本にあり、更に *être* 文（*Ce travail est sans importance*）が元にあると考えれば当然のことである。しかし、こういう分析の展望においては間接目的との境界との関連で複雑な問題を引き起こす可能性があるのではなかろうか。

以上、直接目的属詞構文の伝統的取り扱いにおける幾つかの問題点を挙げたが、本稿は当該構文の独立性と構文型形式を出来るだけ尊重して以下にコーパスの実例を分析することを目的としている。その上で種々の下位クラスの構文の頻度を確認することも重要な目的の一つとしている。この点は、作例による構文の一般的・抽象的分析ではフランス語の共時態の実勢は把握できないであろう、という意味で特に重要である。通常の辞書や特化された動詞構文辞書でもこの種の調査には基づいていないということからしても有意義であろうと考えている。

## 1. 分析の基本的枠組み

フランス語の文は基本的に次の 10 種の構文型に所属すると考えられる。1. S-Pr-Positionnel-, 2. S-Pr-f-r-, 3. S-se-Pr-, 4. S-*être*Vé-, 5. S-Pr, 6. S-Pr-Autonomie-, 7. S-*être*-, 8. *Il/Ce*-Pr-, 9. Pr-, 10. 非動詞文。(S(ujet): 主辞, Pr(édicatif): 述辞, (Dépendant) Positionnel: 位置依存辞, (indicateur) f(onctionnel): 機能指示詞, r(égi): 被制辞 (以下では「f-r」は fr で表示), se: 代名動詞の直接・間接目的の代名詞, Vé: 過去分詞, (Monème) Autonome: 自律記号素, *Il*: 非人称主辞)。「位置依存辞」とは名詞・名詞句に代表されるようにその意味に他要素への関係指示を含まずに基本的に他との相互位置により統辞機能が指示されるもの。「機能指示詞」とは前置詞, 従属接続詞。

「被制辞」は機能指示詞により機能を指示される要素。「自律記号素」は他への関係指示を基本

的に含む形容詞や副詞。)

1. は直接目的を一つ少なくとも含む文, 2. は間接目的を少なくとも一つ含む文 (直接目的は含まない), 3. は代名動詞文, 4. は受動文, 5. 自動詞文, 6. 属詞動詞文 (*être* を除く), 7. *être* 文, 8. 非人称文 (非人称の *Il*, *Ce* を含む全て), 9. 主辞なし動詞文 (例. *N'importe*), 10. 非動詞文 (活用した動詞形を含まない)。

上の文型分類では基本的に「省略」を認めず, 実現された形を尊重する (つまり, これは先ず第一段階としてすべき分類である) ので, 動詞 *juger* の実例には 7. と 9. は存在しないことになる (*Jugez!* のような命令形は基本的に *Vous jugez!* とする, つまり, 動詞語尾に主辞の人称・数が示されているので, 命令形の場合のみ主辞の省略を認める; 命令形以外の主辞なし動詞構文を可能にする動詞の種類は極めて限られている)。予想されるのは, 多くの他の動詞でもそうであるように, 1. の他動詞構文が圧倒的に多く, 6. や 10. はかなり少ないであろうということである。8. もかなり少なからうが予断は許せない。

## 2. 資料体

本分析の資料体としては次の二種である。1. *Le Monde* 1994 年, 2. *Frantext* 1900-2000。1. は 1994 年 1 年間の実例から 1000 例を抽出し, 更に, それから名詞形, 等の直接関連しない例を除き 563 例が残った。2. は *Frantext* の種々の分野から最新の 1000 例を選び, そこから同様に動詞形のみを残し 726 例を対象とした。その結果, 計 1289 例が本分析の資料体を構成することになる。資料体の種類による頻度の違いも下の分類では示すことにする。

## 3. *Trésor* (1983), DUBOIS, DUBOIS-CHARLIER (1997) の分類

我々の分類・分析に入る前に過去の代表的な *juger* の構文分析を見ておく。*Trésor* (1983) はこれまで出版された現代フランス語の辞書の中で最も詳しいものである。DUBOIS, DUBOIS-CHARLIER (1997) は長年種々の現代フランス語辞書を編纂して来た J. Dubois による動詞構文分析表である。

### 3.1. *Trésor* (1983)

構文一覧を取り出してみよう。用例の後に我々の構文型表示を括弧に入れて示す。

#### A. « Régler un différend »

##### 1. « rendre la justice »

Le tribunal juge

(N-V)

- Juger un procès (N-V-N)  
 - Juger une personne (N-V-N)  
 - Juger par contumace (N-V-*par*N)  
 - Emplois abs. (N-V)  
 - Proverbe vieilli : Juger sur l'étiquette (N-V-*sur*N)  
 Juger l'homme à l'enveloppe (N-V-N-*à*N)
2. « Prendre une décision »  
 Des arbitres qui jugent nos prétentions (N-V-N)  
 Des épreuves d'admission écrites jugées par un jury (N-V-*é-par*N)  
 - Emplois abs. : qui juge sans formalité (N-V)  
 - Juger des/les coups (N-V-*[de/ø]*N)  
 Au fig.
- B. Par anal. [Le sujet désigne une puissance supérieure]  
 « Prendre une décision sur le sort de l'âme »  
 Juger les vivants et les morts (N-V-N)  
 - RELIG. CHRÉT. [Le sujet désigne Dieu]  
 Celui qui juge, Dieu plus tard le jugera (N-V-N)
- C.  
 1. PHILOS. LOG. « Affirmer ou nier l'existence d'une chose »  
 Juger, c'est sentir des rapports entre nos idées (N-V)
2. [Le complément désigne une personne]  
 « Avoir, émettre un avis sur quelqu'un, sur quelque chose »  
 La critique, en tant qu'elle jugerait, consisterait dans une comparaison (N-V)
- a) [Le complément désigne une personne]  
 - [Constr. dir.] Pour juger Renan (N-V-N)  
 - [Le complément est précédé par la prép. de] Juger lui-même d'Emilia (N-V-*de*N)
- b) [Le complément désigne une œuvre]  
 - [Constr. dir.] J'ai pu juger cet admirable ouvrage (N-V-N)  
 - [Le complément est précédé par la prép. de]  
 On ne juge pas d'une ville par ses égouts (N-V-*de*N-*par*N)
3. [L'objet est d'ordre moral] « Exprimer son opinion sur autrui »  
 a) [Constr. dir.]

- Commune erreur de juger les gens (N-V-N)  
 Chacun juge les actions des autres (N-V-N)  
 - Absol. Le Seigneur jugera (N-V)  
 - [Le complément désigne l'auteur du jugement]  
 Je me juge à ma valeur (N-se-V-àN)
- b) [Constr. attributive] « Attribuer une qualité ou un défaut à quelqu'un »  
 - Juger quelqu'un + attribut : Il les jugeait des ânes (N-V-N-N)  
 - [Constr. pronom. réfl.] :  
 [L'attribut est un adj.] Elle se jugea faible (N-se-V-A)  
 [L'attribut est un subst.] Il se jugea un dépravé (N-se-V-N)
- c) [Le complément est précédé par la prép. de]  
 Juger d'autrui par soi-même (N-V-deN-parN)
- d) [Le sujet désigne qqc.]  
 Notre goût juge de ce que nous aimons (N-V-deN)  
 Cela juge la valeur de ces papiers (N-V-N)  
 La repartie qu'on y faisait vous jugeait sur l'heure (N-V-N-surN)
4. P. ext. « Se former une opinion »  
 - [Le compl. est une prop. complétive (infinitive ou conjonctive)]  
 On peut juger si Julien était attentif (N-V-DI)  
 Il jugea que le ciel serait favorable ce soir (N-V-queV)  
 Un homme que Rocambole jugea être un médecin (N-V-N-Vinf)
- [Constr. attributive] Juger + subst + attribut du compl.  
 « Attribuer une qualité ou un défaut à quelque chose »  
 [Le compl. est un subst. et l'attribut un adj.]  
 Il ne jugeait plus sa présence utile (N-V-N-A)  
 [Le compl. et l'attribut sont des subst.]  
 Frédéric jugea leur adieu une dernière moquerie (N-V-N-N)  
 [Le compl. est un infinitif et l'attribut un adj.] Juger + adj. + de + inf.  
 « Estimer le bien-fondé d'une action exprimée par l'infinitif »  
 Elle jugera bon de le faire (N-V-deVinf-A)
- [Le compl. est précédé de la prép. de]  
 « Se faire une idée au sujet de quelque chose »

Jugez de mon étonnement	(N-V- <i>de</i> N)
- Loc. (A) <i>en juger par</i> . Si j'en juge par votre goût exquis	(N-V- <i>de</i> N- <i>par</i> N)

上の分類では基本的に先ず意味解釈に拠っているので同一構文が複数個所に出てくるのは避けられない。意味解釈は A.「相違を解決する, 決定を下す」, B.「超自然, 宗教的判断, 決定」, C.「哲学, 論理的な存在の断定・否定」, というようなものなので内容的重なりは必ず出てくる。構文と内容との相関の観点からすると, B. は問題外として, A. は 1 項, 2 項のものが占めていて, 直接目的属詞が関係する 3 項のものは C. に含まれている。構文型による形式的分類になっていないので, 種々の直接目的属詞構文の可能性の比較はしにくい。例えば, N-V-[N/Vinf/*de*Vinf/*que*V/DD/DI]-[A/N/Vinf/fr] の組合せの可否についてはどうであろうか。つまり, 直接目的としては, 名詞, 不定詞, *de* つき不定詞, *que* 節, 直接話法節 (Discours Direct : DD), 間接話法節 (Discours Indirect : DI) が形式的には可能である。これに対して, 属詞または属詞の範列に対応するものとしては, 形容詞, 名詞, 不定詞, 前置詞つき名詞が少なくとも考えられる。(例えば, 直接目的としては, 名詞が可能ならば, 他の全ての名詞句相当の要素 — つまり, 不定詞, *de* つき不定詞, 等 — が可能性としては考えられる。) 全般的に構文の可能性の提示としては分りにくくなっている。

直接目的属詞構文のみを取り出すと次のようになる。N-V-N-N, N-V-N-A, N-V-*de*Vinf-A, N-*se*-V-N, N-*se*-V-A, で全てである。上の分類では N-V-N-Vinf (Un homme que Rocambole jugea être un médecin) は直接目的属詞構文とはみなされていない。また, 前置詞つき名詞で属詞機能を担うもの (On juge cela sans importance, 等) も出ていない。多くの事例の引用はあるが, 直接的事例調査に全て基づいている訳ではない。

### 3.2. DUBOIS, DUBOIS-CHARLIER (1997)

Dubois の *Les Verbes français* も直接的な事例調査に基づくものではない。構文を同様に列挙してみよう。

- 01 « prononcer sentence »	Le tribunal juge un délit	(N-V-N)
	Cette affaire se juge en cour d'appel	(N- <i>se</i> -V)
- 02 « donner sentence pour »	On juge Paul pour un crime	(N-V-N- <i>pour</i> N)
- 03 « arbitrer »	Le médiateur juge un différend	(N-V-N)
- 04 « classer, estimer »	On juge des films à un festival	(N-V-N)
- 05 « classer, jauger »	On juge les gens sur leurs actes	(N-V-N- <i>sur</i> N)

	On juge Paul sur son livre	(N-V-N- <i>sur</i> N)
- 06 « être d'avis que »	On juge que Paul est nul	(N-V- <i>que</i> V)
	On juge Paul compétent	(N-V-N-A)
	On juge Paul avoir raison	(N-V-N-Vinf)
	On juge le film mauvais	(N-V-N-A)
- 07 « décider, constater »	On doit juger si on doit attendre ou non	(N-V-DI)
- 08 « constater »	On peut juger de la colère de l'assistant	(N-V- <i>de</i> N)
	On peut juger de ma surprise	(N-V- <i>de</i> N)

直接目的属詞構文と関係するのは 06 である。これは N-V-*que*V, N-V-N-A, N-V-N-Vinf の三種にまとめられる。N-V-N-N, N-V-*que*V-A が指摘されていないし、N-V-*de*Vinf-A がないことも気になる場所である。N-V-N-Vinf が N-V-N-A や N-V-*que*V と同じグループに入れられているのは興味深い。N-V-N-Vinf の用例の不定詞は avoir であるが、不定詞の範列は être や avoir に限られてはいないのではなかろうか。これは直接目的属詞構文と être 属詞構文との関係にも関連してくる構文である。

#### 4. juger の構文

以下では上の 1. で示した構文型の基本枠に沿って動詞 *juger* の事例の全構文を分類、検討して行く。全体の構文の中で直接目的属詞構文とされるものの位置づけも決まるからである。また、通常属詞構文分析の対象とはならないが関連している構文の問題もある。以下の事例で括弧の中の出現数は最初が *Le Monde* 94 のもの、二番目が *Frantext* のものである。用例末尾の LM94 は *Le Monde* 1994 のものであることを示す。他は *Frantext* の種々の分野からのものである。

##### 4.1. Sujet-Pr-Positionnel- (LM94: 285 + Frantext: 402 = 687/総計 1289 例)

これは他動詞の構文で当然頻度数も最高である。「主辞+述辞」と少なくとも一つ名詞句相当語句 (=位置依存辞; ここでは直接目的) を取る。

##### 4.1.1. N-V-Positionnel (113+137=250)

##### 4.1.1.1. N-V-N (28+80=108)

この構文が基本となる。直接目的の N の範列に他のどのような位置依存辞が入りうるか、そして、この N が他のどのような要素と両立しうるかが問題となる。

(1) Tu finiras amiral ! C'est agréable, non ? de faire envie ?... – Faire envie ? C'est-à-dire ? – Ben oui, quoi, que les autres crèvent d'être à votre place... Alain ne jugeait pas Victoire : elle lui était incompréhensible. Les mathématiques et la religion le fermaient à toute futilité. Il mettait le cœur en équation. (POIROT-DELPECH.B / L'ETE 36 / 1984 page 53 / Première partie, IV)

#### 4.1.1.2. N-V-Vinf (1+2=3)

(1) L'administration s'était refusée à attacher trop de signification au fait qu'Igor Gaïdar, un des chefs de file des réformateurs, ait jugé ne pas pouvoir figurer dans la nouvelle équipe du premier ministre Viktor Tchernomyrdine. (LM94)

(2) [...] elle se sentait obligée de sacrifier à un cérémonial auquel, une fois les invitations lancées, le menu décidé, les vins choisis et les plantes vertes disposées, elle jugeait sans doute avoir satisfait et dont elle semblait dès lors se désintéresser, se contentant d'être simplement présente, semblable, avec sa bouche entrouverte [...]. (SIMON.C / LES GEORGIQUES / 1981 page 175 / III)

上の構文は頻度は低いですが直接目的属詞構文との関連でも重要である。つまり、多少とも「述辞化 (prédication)」が関係するものは意味解釈的には属詞との関わりを持ちうる。特に、不定詞はその典型である。この構文は上の 3. の辞書、先行研究でも挙がっていないことに注目すべきである。典型的「 $N_0$ -*juger*- $N_1$ - $A_2$ 」との比較で言うと、上の Vinf は  $N_1$ - $A_2$  に相当する。 $N_1$  が欠けているのは、 $N_0=N_1$  だからであるとも言える。

#### 4.1.1.3. N-V-deVinf (0+0=0)

上の構文は見られない。*deVinf* が名詞句相当として *juger* の構文で可能になるのは他要素と両立する場合である。以下に出てくる「4.1.3.3.1. N-V-deVinf-A」は頻度が高い。

#### 4.1.1.4. N-V-queV (63+48=111)

(1) "Cela veut dire une réflexion sur la nécessité aujourd'hui de tirer les conséquences de l'obstination des parties à obtenir par la guerre ce que nous leur proposons de trouver par la paix", a ajouté le ministre des affaires étrangères. M. Juppé a, d'autre part, jugé qu'il n'y avait "pas de guerre" entre les Nations unies et les généraux français qui se sont succédé au commandement de la FORPRONU. (LM94)

「N-V-*que*V」は「N-V-N」と同等の頻度で *juger* の重要構文の一つである。これが伝統的に直接目的属詞構文との関連が話題になる構文である。ただし、以下の「4.1.3.4.1. N-V-*que*V-A」にも注目。

#### 4.1.1.5. N-V-DD (14+4=18)

##### 4.1.1.5.1. N-V-DD (0+0=0)

##### 4.1.1.5.2. N-V<sub>inc</sub>-DD (14+4=18) (V<sub>inc</sub>: 挿入句)

(1) [...], les communes du canton de Cérilly finissent tout de même par prendre de l'avance, d'un seul coup, en 1967. Elles décident en effet de s'en remettre à une formule magique alors toute neuve en Allier : l'intercommunalité. "C'est certainement la plus ancienne et la mieux menée", juge Bernard Labonne, président de la Fédération départementale des foyers ruraux. Il s'agit alors de créer un syndicat pour réparer les dégâts commis par le tourisme anarchique, [...]. (LM94)

(2) [...], Jean-Y. comprit qu'il fallait dire oui. Il hocha vaguement la tête et referma la porte de la cave. - Ben, si t'as fait ça, t'es un beau salaud ! jugea le gosse. Il fit tourner son pistolet autour de son index et recula dos au mur pour éviter toute surprise. Le colt frontière en plastique se cala dans sa petite main. (VAUTRIN.J / BLOODY MARY / 1979 page 126)

挿入句の「主辞－動詞」を副詞節的なものとみなせば、そこでの *juger* の用法は自動詞的絶対用法になる。上では、挿入句の *juger* と直接話法 (DD) の部分との間に「動詞－直接目的」関係を認めたものとして分類している。通常の順序（例えば, Bernard Labonne *juger*: "C'est certainement la plus ancienne ...") でも可能であろう。

#### 4.1.1.6. N-V-DI (7+3=10)

(1) Un crime d'autant plus troublant que la "fiction" s'inscrit dans une trame qui serre la réalité historique au plus près. A chacun de juger qui du roman ou de l'histoire est le plus plausible. (LM94)

(2) Tout se joue avant six ans... ou avant quatre ans ? Il ne s'agit pas de juger si, passé cet âge, on va de mal en pis, mais de savoir que la structure est acquise. Quand je dis « tout se joue », je n'entends pas la future carrière, [...]. (DOLTO.F / LA CAUSE DES ENFANTS / 1985 page 476 / QUATRIÈME PARTIE LA RéVOLUTION DES PETITS PAS)

上では疑問詞 (*qui*) や従属接続詞 (*si*) が先立つ間接話法節が直接目的となっている。

#### 4.1.2. N-V-Positionnel-Positionnel (1+8=9 occ.)

##### 4.1.2.1. N-V-N-Positionnel

###### 4.1.2.1.1. N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-N<sub>2</sub> (0+5=5) N<sub>2</sub>: 属詞

(1) [...] étudiant qui se débrouille avec l'argent de l'état, l'aide modeste des parents, le baby-sitting et les enquêtes, va au cinéma, lit, danse, et bosse pour avoir ses examens, juge le mariage une idée bouffonne. Pareil, pas tout à fait. Je sais bien que je n'ai pas été le genre fille forte qui négocie habilement sa petite destinée. (ERNAUX.A / LA FEMME GELEE / 1981 page 113)

###### 4.1.2.1.2. N-V-N-Vinf (1+3=4)

(1) Pas de témoins, pas de papiers... à la longue, j'en suis à peaufiner, presque à ironiser, teintant nos dénégations cent fois confrontées du doigt de cynisme que je juge, intuitivement, être censé pouvoir me permettre, en toute bonne foi surprise, à ce stade d'injustice et d'absurdité supposées. Et j'ai d'ailleurs droit à mon petit moment [...]. (BAYON / LE LYCEEN / 1987 page 342)

(2) Au lieu de l'homme, on considère d'abord le citoyen, puis le prolétaire, enfin le soldat; on applique à chacun des solutions sommaires que l'on juge valoir exactement pour tous, mais qui, en fait, ne valent que pour une abstraction d'homme [...]. (FOURASTIE.J / LE GRAND ESPOIR DU 20E SIECLE / 1969 page 349)

上の二構文は頻度は低いが重要である。「N-V-N-N」は伝統的にも直接目的属詞とされる構文である。「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-N<sub>2</sub>」と「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-Vinf<sub>2</sub>」との違いは何であろうか。両者において「主辞—述辞」関係が意味解釈的観点から認められ、N<sub>1</sub>が主辞に相当するという点は共通であろう。大きな違いは前者に動詞形がない（それで *être* を「復元」する分析が出て来る）のに対して後者に Vinf<sub>2</sub> があるということである。

#### 4.1.3. N-V-Positionnel-Autonome (158+213=371)

##### 4.1.3.1. N-V-N-Autonome

###### 4.1.3.1.1. N-V-N-A (111+128=239) A: 属詞

(1) Restreindre les allocations La coalition, convaincue qu'une partie du chômage structurel provient d'un mauvais fonctionnement du marché du travail, juge une libéralisation nécessaire. Elle propose de

restreindre les aides ABM (Arbeitsbeschaffungsmassnahmen), qui sont des allocations de formation permettant aux salariés sans travail de rester [...]. (LM94)

これは典型的直接目的属詞構文で、頻度も最高である。次の「N-V-N-Vé」も基本的に同じである。

#### 4.1.3.1.2. N-V-N-Vé (10+9=19) Vé: 属詞

(1) D'un coup, le doute s'est insinué dans leurs esprits : "Peut-être allons-nous avoir d'autres déceptions prochainement", entendait-on dans les salles de marché. Tout en prenant cette alerte au sérieux, certains jugeaient ces déclarations exagérées et plutôt inspirées par des considérations politiques. Des rumeurs évoquaient alors la complicité de Pierre Suard avec Jacques Chirac [...]. (LM94)

(2) Polo était le plus rouge de la bande. Sergent de l'armée de l'air en permission libérable, il militait à l'extrême gauche derrière Marceau Pivert. Il jugeait le moment venu que la classe ouvrière « fasse le saut dans l'illégalité», que « des soviets se créent dans les usines occupées », « que se réalise le grand rêve de 1917 ». (POIROT-DELPECH.B / L'ETE 36 / 1984 page 29 / Première partie, II)

上の (2) で que la classe... 以下の節は le moment に形容詞節として係っている。

#### 4.1.3.1.3. N-V-N-Ad (7+14=21) Ad: (1) 「様態」, (2) 属詞

(1) Eux-mêmes avouent d'ailleurs qu'ils sont "schizophrènes" sur cette question. Rationnellement, ils sont favorables au temps partiel ou à la semaine de quatre jours, et cependant ils "se méfient de celui qui veut travailler moins". "On doute de sa motivation, on le juge négativement", parce que le "système" empêche de raisonner autrement. Tel jeune cadre désireux de prendre un congé sabbatique, s'est finalement vu proposer un nouveau poste [...]. (LM94)

(2) Ce que j'ai appris à Saint-Denis, c'est d'abord à travailler ensemble : il n'y a pas de travail sur la ville qui ne soit collectif. Au-delà de votre expérience actuelle, comment jugez-vous l'évolution de votre profession ? Je suis inquiet quand je vois l'évolution de ce métier et tant de talents si mal utilisés. Il faut renouer avec des principes assez simples. (LM94)

「N-V-N-A」で A の代わりに Ad が入った「N-V-N-Ad」が属詞構文と無関係とは言い切れない

い。というのは、属詞の箇所を問う疑問詞は *comment* であるが、これは様態の副詞にも対応しているからである (*Comment le jugez-vous ? — [Négativement/Négatif].*)。その結果、属詞形容詞とある種の様態副詞は両立しにくくなっているのではなかろうか (cf. *?Je le juge mauvais négativement, ?Je le juge négatif négativement*)。

#### 4.1.3.2. \*N-V-Vinf-Autonomie

##### 4.1.3.3. N-V-deVinf-Autonomie

###### 4.1.3.3.1. N-V-deVinf-A (22+60=82) A: 属詞

(1) [...], "auront le droit d'effectuer" leur pèlerinage en processions "sous drapeau palestinien" (article B, paragraphe 2, chapitre 2, intitulé "zone de Jéricho"). Israël, qui n'a eu, tout au long des négociations, que "des préoccupations de sécurité", a jugé prudent de limiter à "trois fois par an" les dangereuses processions chrétiennes... Les "autres occasions spéciales" de visite aux sites religieux devront être préalablement "coordonnées [...]". (LM94)

この「N-V-deVinf-A」も重要構文の一つである。ここで特に注意すべきは、前置詞 *de* なしの「N-V-Vinf-A」が不可能なことである。不定詞が *juger* の直接目的機能を担えないということではないことにも注意すべきである (cf. 上の「4.1.1.2. N-V-Vinf」)。そして、この *de* が「話題・対象 (～について)」を表す前置詞ではないことにも注意すべきである。この意味の *de* は *juger* 構文では不定詞には付かないのである (ただし、「4.2.1.1.1. N<sub>0</sub>-*juger*-deN<sub>1</sub>」は可能で、この *de* は、N-*juger*-øN との対比からしても、「対象」を表すが、ここで N<sub>1</sub> の範列中に不定詞は存在しない)。

つまり、*juger* の構文では、直接目的機能の不定詞に前置詞 *de* が付くのは直接目的属詞構文に限るのである。「N-V-deVinf-A」での *deVinf* は直接目的の N に代わるものである (我々の分類においては、*deVinf* は位置依存辞の一つの可能な形とされていることに注意)。直接目的 *deVinf* 中の *de* は特殊な積極的意味を持たない (これは主辞機能の *deVinf* についても同様である)。なお、以下の「4.2.1.6.2. N-V-à propos deVinf」での整理も参照。

#### 4.1.3.4. N-V-queV-Autonomie

##### 4.1.3.4.1. N-V-queV-A (8+2=10) A: 属詞

(1) La survie, à terme, de SMF passe par une fusion avec une autre entreprise de la région, Cannes-La Bocca Industries, également sous-traitante de la SNCF. Le premier ministre a, enfin, "jugé opportun" qu'une table ronde ait lieu "dans les meilleurs délais", sous l'égide du préfet de région, Claude Bussière,

afin "d'adopter le principe d'une vocation industrialo-maritime du site [...]. (LM94)

この構文は上の 3. の先行研究 2 点に出て来ないという点で注目すべきである。我々の基本的枠組みでは、「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-A<sub>2</sub>」が可能ならば、N<sub>1</sub>には他の全ての名詞句相当の可能性を考えてみるべきであるということになる。

#### 4.1.3.5. N-V-DD-Autonome (0+0=0)

#### 4.1.3.6. N-V-DI-Autonome (0+0=0)

#### 4.1.4. N-V-Positionnel-fr (11+43=54) (f (fonctionnel): 機能指示詞, r (régie): 被制辞)

##### 4.1.4.1. N-V-N-fr (10+41=51)

fr は前置詞や従属接続詞の付いた「自律化連辞 (autonomié)」である。これは属詞というよりも、「根拠」やそのための「手段」、等を表す場合が多いが、juger の構文を特徴付けるもので重要と思われるものを下に列挙した (cf. 上記先行研究の構文型)。fr については伝統文法的意味解釈を参考につける。

##### 4.1.4.1.1.1. N-V-N-surN (1+4=5) surN: 「根拠」

(1) "A l'isolement total, c'était le cauchemar, soutient Altiéri. J'avançais vers le suicide." Reste que la précision des détails fournis par Altiéri au juge helvétique sur l'itinéraire suivi par la moto étonne le président Fayolle, qui ajoute : "Certes, on ne juge pas quelqu'un sur ses aveux." Altiéri s'embrouille un peu, se moque des procès-verbaux "c'est du papier, tout ça" [...]. (LM94)

##### 4.1.4.1.2.1. N-V-N-selonN (1+0=1) selonN: 「根拠」

(1) Je n'ai absolument aucun comportement obsessionnel à l'égard du président de la République. Je n'ai jamais été ni un "tontonmaniaque" ni un "tontonflingueur". Je connais l'homme politique François Mitterrand depuis 1965 et je n'ai pour lui aucune hostilité particulière. Je le juge selon ses actes. Comme les autres journalistes, je fais des "papiers" tantôt pro-Mitterrand, tantôt anti-Mitterrand. (LM94)

##### 4.1.4.1.3.1. N-V-N-parN (0+3=3) parN: 「根拠」

(1) Il est vrai que l'on hérite de traits, et parfois de gestes de toute une vie qui ne se sont pas figés en traits. La deuxième hypothèse semblait la plus plausible à juger par le nombre de rides précoces qu'une indignation ou un étonnement qui duraient encore eussent ramassées pour toujours. (BIANCIOTTI.H /

SANS LA MISERICORDE DU CHRIST / 1985 page 15)

**4.1.4.1.4.1. N-V-N-*sans*N** (1+3=4) *sans*N: 属詞

(1) Il est vrai que les critiques des nouveaux élus de l'UDF s'adressent aussi à leur propre formation et à leur propre groupe parlementaire, puisque le fonctionnement des partis ne paraît pas satisfaisant à 72 % d'entre eux (55 % des RPR) et que 49 % d'entre eux jugent sans importance le travail au sein du groupe (35 % au RPR). (LM94)

上の *sans*N は伝統的に属詞とされる。

**4.1.4.1.5.1. N-V-N-*avec*N** (0+4=4) *avec*N: 「様態・程度」

(1) Mais je porte le nom que Wronski m'a donné et a donné à ma fille dans des moments de détresse. J'imagine avec quelle dureté les gens pourraient me juger, de l'extérieur, pour m'être conduite comme je l'ai fait avec Piotr Vassilievitch. C'est mon affaire, et la sienne. (ORMESSON.J D' / LE VENT DU SOIR / 1985 page 115)

*sans* の反意の *avec* であるが、ここでは *avec*N は直接目的ではなくて主辞の動作の「様態」を表す。ここには参考例として挙げておく。しかし、これも *comment* には対応する (cf. 4.1.3.1.3. の *négativement*)。

**4.1.4.1.6.1. N-V-N-*à*N** (1+3=4) *à*N: (1) 「根拠・基準」、(2) 属詞

(1) A une époque où le souci humanitaire essaie sans beaucoup de succès de combattre les barbaries qui renaissent de toutes parts, il serait salutaire de se rappeler qu'il n'y a pas de pire racisme que celui qui continue au-delà de la mort ni de pire complicité avec la barbarie que celle qui juge l'importance de l'ignominie à l'aune du nombre des victimes. La torture d'un seul homme par ceux qui portent un uniforme ne saurait admettre ni des jugements mitigés ni des circonstances [...]. (LM94)

(2) Dès qu'elle avait ouvert les armoires, la Batti y prenait ce qu'elle jugeait à propos, les fermait, et y rétablissait les scellés, en ramollissant de nouveau le cachet avec la flamme d'une chandelle, appliquant le pouce sur la cire [...]. (SIMON.C / LES GEORGIQUES / 1981 page 416 / V)

上の (2) の *à propos* は *juger* 構文では形容詞的凝結句で属詞になる。

#### 4.1.4.1.7.1. N-V-N-enN (1+2=3) enN: (1), (2) 属詞

(1) [...], un de ces coups de rein que lègue l'histoire des villes comme pour ménager des parcours à surprises vers la tour d'une cathédrale et le quartier du Musée des beaux-arts. C'est ainsi tout le charme et la continuité d'une ville provinciale que nous fûmes nombreux à juger en péril, sachant Nouvel capable de toutes les audaces, pour le meilleur et parfois pour le pire. (LM94)

(2) Lucien pose la valise. « C'est la première fois que Monsieur le Baron touche à la chambre. » Il regarda Catherine, plus raisin que figue, l'air de juger les affaires de cette jeunesse en assez bonne voie. La cloche sonne le dîner. Catherine surprend Bertrand qui s'échine sur des registres, des colonnes de chiffres : [...]. (RHEIMS.M / LES GRENIERS DE SIENNE / 1987 page 192 / V)

上の二例とも属詞であるが、enN が全て属詞になる訳ではない。二例とも抽象的な位格 (locatif) とみなすことも十分可能である。位格は種々の統辞機能と重なり合う場合が多い。

#### 4.1.4.1.8. N-V-N-commer

##### 4.1.4.1.8.1. N-V-N-commeN (1+1=2) commeN: 属詞

(1) [...] et, pour vos quatre-vingts ans, de vous en offrir les acquits. – Et c'est ma fille qui me tient pareil langage. – Eh oui, elle que jadis, au dire de maman, vous jugiez comme une emmerdeuse, avec ça disgracieuse. – Forcément, à Sainte-Marie, à turbiner, toujours dans les premières. Intellectuelle ! à dire vrai, ça s'annonçait plutôt mal [...]. (RHEIMS.M / LES GRENIERS DE SIENNE / 1987 page 71 / I)

##### 4.1.4.1.8.2. N-V-N-commeA (0+2=2) commeA: 属詞

(1) Les myopes qui baignent dans des luminosités vagues, sans contours précis, sans linéaments solides offrant un appui consistant à l'intelligence, ne peuvent les juger que comme agréables ou désagréables. Alors que le clairvoyant oublie la tonalité affective de ce qu'il détaille et mesure. La gadoue n'est pas – comme on croit – une puanteur [...]. (TOURNIER.M / LES METEORES / 1975 page 98 / CHAPITRE IV, LA PROIE DE LA PROIE)

##### 4.1.4.1.8.3. N-V-N-commeV (0+2=2) commeV: 「様態・仕方」

(1) [...], Joyce, dorénavant, n'y obéira que pour un autre interlocuteur, un auditeur qu'elle paye grassement, qui est à son service, et qui ne se permettra pas de la juger comme le fait Drifter, avant tant

d'outrecuidance. Elle pense au Docteur Hassenfärder et, curieusement, elle ne l'identifie plus comme le comique Docteur « Fumetto ». (LABRO.P / DES BATEAUX DANS LA NUIT / 1982 page 374 / CINQUIÈME PARTIE)

上の *commeN* と *commeA* は属詞, *commeV* は「様態」の副詞節である。*commeN* は属詞になるとは限らない。*commeV* は属詞にはならないだろうが, *comment* には対応する。

#### 4.1.4.1.9.1. N-V-N-*deN* (2+6=8) *deN*: (1) 属詞, (2) 「根拠・状況」

(1) Un champ d'observation très riche. L'entrée dans le travail réel nécessite un sas, sitôt la porte du bureau franchie. Manière de calmer une petite angoisse précédant une tâche jugée difficile, ou pour différer un travail que l'on juge d'un mortel ennui ? Les deux cas de figure existent. Prenez le cas d'Alain, ce jeune concepteur publicitaire. (LM94)

(2) Il sera toujours temps de voir plus tard s'il est encore possible d'en convaincre quelques autres. En politique, comme ailleurs, il n'y a qu'une situation d'où juger convenablement les événements et les hommes : la moins encombrée, la plus haute. J'ai bien peur que votre ami ne s'y soit pas tenu. » (ORMESSON.J D' / AU PLAISIR DE DIEU / 1974 page 417 / TROISIÈME PARTIE, I)

#### 4.1.4.1.10.1. N-V-N-*à partir deN* (1+0=1) *à partir deN*: 「根拠」

(1) Pour les adeptes du sociological turn en histoire des sciences, inspirés par les travaux de l'école d'Edimbourg (par exemple, ceux de David Bloor ou de Barry Barnes), l'étude d'une dispute scientifique repose sur deux principes : éviter toute interprétation téléologique, qui jugerait la polémique à partir de la vérité énoncée par la science actuelle; tenir également comme recevables et crédibles les arguments de chacun des adversaires affrontés. (LM94)

#### 4.1.4.1.11.1. N-V-N-*d'aprèsN* (0+5=5) *d'aprèsN*: 「根拠」

(1) [...], elle exige de l'homme toujours les mêmes gestes dans les mêmes temps et partant toujours les mêmes pensées, les mêmes ordres de préoccupations... il ne s'agit plus de juger le travail humain d'après l'idée que s'en fait l'homme, mais d'après son seul effet sur la machine : dans l'exécution, puis souvent dans la conception même, [...]. (FOURASTIE.J / LE GRAND ESPOIR DU 20E SIECLE / 1969 page 345)

**4.1.4.1.12.1. N-V-N-pourN** (0+1=1) *pourN*: 「原因」

(1) [...], et même, je lui avais tant donné que je lui devais encore, encore plus, c'est bien comme ça que ça se passe dans la plupart des ciboulots. Ou alors, entre-temps, il m'avait jugé à huis clos, pour quelque chose que j'ignore, et j'étais pas au courant, puni sans savoir, tout à fait dans le style de ces gens-là. « Ces gens-là », ça me fait mal d'en parler ainsi [...]. (CHABROL.J-P / LA FOLIE DES MIENS / 1977 page 18)

上例の *pourN* は属詞とは言いがたいが、単なる「原因・理由」とも言いにくいのは、「*juger-N-[coupable/responsable/...-de(pour)N]*」のようなニュアンスを感じさせるからであろうか (cf. 以下の受動構文の 4.4.5.1.1.)。

**4.1.4.1.13.1. N-V-N-par rapport àN** (0+1=1) *par rapport àN*: 「根拠」

(1) Si on montrait aux parents ce que leur enfant a en propre, ils auraient moins de possessivité; ils auraient moins la tentation de juger l'enfant par rapport à ce qu'ils sont eux-mêmes et à ce qu'ils en attendent. Ils seraient plus enclins à admettre que cet enfant se conduise d'après ses propres affinités [...]. (DOLTO.F / LA CAUSE DES ENFANTS / 1985 page 380 / DEUXIÈME PARTIE UN ÊTRE DE LANGAGE)

**4.1.4.1.14.1. N-V-N-au-dessus deN** (0+1=1) *au-dessus deN*: 属詞

(1) [...] mon intelligence mesurait – mais pourquoi ce passé, cela demeure vrai – l'effort à fournir et se rassemblait pour vaincre. Ou bien – c'était très souvent le cas – le jugeait au-dessus de ses forces, en faisait alors le tour et tâchait de supputer la préparation qu'il faudrait qu'il se donne pour en venir à bout. (TOURNIER.M / LE VENT PARACLET / 1977 page 44 / I)

**4.1.4.1.15.1. N-V-N-au-dessous deN** (0+1=1) *au-dessous deN*: 属詞

(1) Quant aux autres établissements d'état : l'école professionnelle Livet, les écoles primaires supérieures, les écoles normales, que nous jugions au-dessous de nous, nous les méprisions simplement et parfaitement. Au fond, je crois que nous pressentions [...]. (GRACQ.J / LA FORME D'UNE VILLE / 1985 page 173)

**4.1.4.1.16.1. N-V-N-hors deN** (1+2=3) *hors deN*: 属詞

(1) [...] la lutte contre la fraude fondée sur une coopération européenne efficace fera et fait déjà peut-être

plus peur aux fraudeurs que les anciens contrôles aux frontières intérieures. "Nous ne devons donc pas relâcher l'effort et, sous certaines pressions conjoncturelles, ou par peur du changement, *juger prématurément hors d'atteinte les objectifs fixés* d'un commun accord. C'est une question de crédibilité de la construction européenne vis-à-vis de l'opinion. (LM94)

(2) [...], il n'y avait pas à gâcher son plaisir. Bien que tenté de lui prendre jusqu'à la dernière goutte, Nathan cessa la transfusion dès qu'il jugea l'enfant hors de danger. A vrai dire, Ben Avram innovait, s'inspirant d'une méthode que son maître Maimonide préconisait peu avant sa mort mais n'avait pas eu l'occasion [...]. (LANZMANN.J / LA HORDE D'OR / 1994 page 224 / Chapitre VI)

上の *au-dessous de*N, *au-dessus de*N, *hors de*N の三構文は「抽象的位格」であり属詞でもある。

#### 4.1.4.2. N-V-Vinf-fr

##### 4.1.4.2.1.1. N-V-Vinf-àN (0+1=1) àN: 「根拠」

(1) Ayant siroté son café pour se mettre en condition, la vieille dame jugeant, à l'angoisse de ma mère, devoir employer les grands moyens, se faisait apporter le guéridon, réclamait la fermeture des volets, afin d'obtenir la pénombre propice (SIMONIN.A / CONFESSIONS D'UN ENFANT DE LA CHAPELLE / 1977 page 108)

#### 4.1.4.3. N-V-deVinf-fr (0+0=0)

##### 4.1.4.4. N-V-queV-fr

##### 4.1.4.4.1.1. N-V-queV-deN (1+0=1) deN: 「根拠」

(1) Il argumente : "Nous sommes dans le même bateau." Le degré d'intégration des douze pays européens est si avancé que plus aucun n'a les moyens d'une politique monétaire indépendante. Tous "ont intérêt à coopérer". Il juge, de ce fait, que l'avènement d'une monnaie unique en Europe est inéluctable : "Je ne sais comment cela arrivera, mais je suis convaincu que le processus ira à son terme. (LM94)

#### 4.1.4.5. N-V-DD-fr (0+0=0)

##### 4.1.4.6. N-V-DI-fr

##### 4.1.4.6.1.1. N-V-DI-àN (0+1=1) àN: 「根拠」

(1) [...] mais je n'ai rien vu, la lumière du lampadaire étant trop loin de nous. – En téléphonant, tu ne lui dis pas tout de suite où on est. Tu lui parles de la situation. Et tu juges, à ce qu'elle te répondra, si elle te conseille ou non d'en dire plus... – Je ne suis pas complètement idiote... Nous sommes allés vers la place. (POUY.J-B / LA CLEF DES MENSONGES / 1988 page 153)

#### 4.1.5. N-V-Positionnel-Autonyme-fr (2+1=3)

##### 4.1.5.1. N-V-N-Autonyme-fr (0+1=1)

###### 4.1.5.1.1.1. N-V-N-A-*selon*N (0+1=1) A: 属詞, *selon*N: 「根拠」

(1) [...] d'être une barrière de sécurité derrière laquelle les adultes se retranchent en fonctionnaires anonymes vis-à-vis d'élèves robotisés, interchangeables, sauf à juger bons, médiocres, mauvais selon leur docilité. A ce compte-là, des machines à enseigner suffiraient. Au moins, on n'attendrait rien d'autre de ces machines... (DOLTO.F / LA CAUSE DES ENFANTS / 1985 page 403 / TROISIÈME PARTIE UTOPIES POUR DEMAIN)

##### 4.1.5.2. N-V-Vinf-Autonyme-fr (0+0=0)

##### 4.1.5.3. N-V-*de*Vinf-Autonyme-fr (2+0=2)

###### 4.1.5.3.1.1.1. N-V-*de*Vinf-A-*pour*N (2+0=2) A: 「属詞」, *pour*N: 「利害」

(1) "L'idée que Jacques Chirac puisse conduire éventuellement une liste unique de la majorité aux élections européennes ne me donne pas de poussée d'urticaire. Rien ne doit être écarté a priori, il ne doit pas y avoir d'exclusive", a ajouté le député du Pas-de-Calais. M. Vasseur ne juge pas obligatoire pour M. Chirac, s'il conduit la liste, de siéger à Strasbourg. Il estime, enfin, que cette liste unique de la majorité doit obtenir "au moins 35 %" des voix. (LM94)

上の構文で *pour*N なしものは頻度が高い (cf. 4.1.3.3.1. N-V-*de*Vinf-A)。*pour*N は直接目的 *de*Vinf の不定詞の意味上の「動作主」を表すが機能的には与格に近い。

## 4.2. Sujet-Pr-fr- (55+133=188 occ.)

### 4.2.1. N-V-fr (26+65=91)

#### 4.2.1.1. N-V-*der* (19+58=77)

##### 4.2.1.1.1. N-V-*de*N (19+58=77) *de*N: 「対象」

(1) La plante législative trouva certes là terreau à sa convenance. Encore dut-elle trouver quelques jardiniers attentionnés... Stephen Trombley ne les oublie pas, qui dissèque notamment le processus de

validation par la Cour suprême, juge de la constitutionnalité des lois, du projet adopté en 1924 par l'Etat de Virginie. Une loi devant laquelle s'inclinèrent les nazis, l'université de Heidelberg offrant quelques années plus tard [...]. (LM94)

#### 4.2.1.1.2. \*N-V-deVinf

上の N-V-deN も重要構文で N-V-N と対立している。前者はより間接的機能を担い「話題・対象 (～について)」のニュアンスが出てくる。この意味での「*deVinf*」は存在しないことに注意 (cf. 4.2.1.6.2. N-V-à *propos deVinf*)。

#### 4.2.1.2.1. N-V-surN (5+2=7) *surN*: 「根拠」

(1) Pas un mot fâcheux contre Jacques Chirac, maire de Paris ! En revanche, le premier ministre et son ministre de l'intérieur sont passés à la moulinette de son ironie. "Ne jugez pas sur ce qu'ils disent, jugez sur ce qu'ils font ! L'équation de M. Balladur est simple : 120 milliards de prélèvement sur le pouvoir d'achat des Français + 80 milliards d'allègement des charges des entreprises [...]. (LM94)

これは「 $N_0$ -V- $N_1$ -*surN\_2*」で  $N_1$  が省略された例とみるべきであろう。3.1. *Trésor* の「Proverbe vieilli : Juger sur l'étiquette」と比較のこと。

#### 4.2.1.3.1. N-V-parN (1+3=4) *parN*: 「根拠」

(1) « C'est beau », ai-je le temps de penser, en m'asseyant avec précaution (tout le monde écoute si bien !), mais je suis distrait aussitôt de cette velléité de juger par l'étrangeté des mots qui montent du fond de l'œuvre. Incompréhensibles comme souvent, ils le sont d'une autre manière, ils ont quelque chose de plus véhément, [...]. (BONNEFOY.Y / RUE TRAVERSIERE ET AUTRES RECITS EN REVE / 1987 page 129)

#### 4.2.1.4.1. N-V-d'aprèsN (0+1=1) *d'aprèsN*: 「根拠」

(1) Elle le regarda et s'étonna qu'il ne comprît pas, ou plutôt, elle reconnut son propre étonnement et le chassa. Riccardo n'était pas très fin. Il jugeait d'après son impatience de jeune mâle content de lui. Il n'avait pas été ému par la présence de la mort. Et il ne laissait personne à la maison. (ROMILLY.J DE / LES ŒUFS DE PAQUES / 1993 page 72)

#### 4.2.1.5.1. N-V-*selon*N (1+0=1) *selon*N: 「根拠」

(1) [...] les uns et les autres avaient ensuite déféré le texte "sacrilège" au Conseil constitutionnel. Ce dernier, dont la majorité des membres actuels tiennent leur mandat de personnalités de gauche (le président de la République ou les présidents de l'Assemblée nationale de la précédente législature), jugeant néanmoins en toute sérénité selon sa jurisprudence, a donné raison aux plaignants. Du moins a-t-il annulé l'article essentiel de la loi, même s'il ne l'a pas fait uniquement, [...]. (LM94)

#### 4.2.1.6.1. N-V-à *propos de*N (0+0=0)

#### 4.2.1.6.2. N-V-à *propos de*Vinf (0+1=1) à *propos de*Vinf: 「話題・対象」

(1) [...] avait pas le moindre esprit de coopération à attendre de mes deux bestioles. A peine l'un des bourdons se trouvait-il dans mon collimateur, et la mise au point achevée, qu'il jugeait à propos de changer de fleur avant que j'aie pu prendre la photo. J'étais concentré, tendu, au bord de l'exaspération, quand un énorme intrus surgit [...]. (TOURNIER.M / LE MEDIANOCHE AMOUREUX / 1989 page 128)

この構文は、先ず、「話題・対象」を明示する凝結的前置詞句 à *propos de* が使われていること、次に、*juger* の構文では、「話題・対象」の *de* は不定詞の前では使えないこと、という二点において興味深い (cf. 4.1.3.3.1. N-V-*de*Vinf-A, 4.2.1.1.2. \*N-V-*de*Vinf)。 *juger* が項として前置詞なしの不定詞を取れない訳ではないことにも注意 (cf. 4.1.1.2. N-V-Vinf, 4.1.2.1.2. N-V-N-Vinf, 4.1.4.2.1.1. N-V-Vinf-àN)。

これを他の関連構文とともに以下に整理しておく。(以下では特に  $de_f$  と  $de_p$  の違いに注意。 $de_f$  は通常の前置詞でこれがついた要素は名詞句相当にはなりえない。 $de_p$  は不定詞のみにつき全体は名詞句相当になる。 $de_f$ Vinf も動詞によっては可: 例えば, *parler-de\_f*Vinf, 等。)

S-Pr-Positionnel	S-Pr-Positionnel-A	S-Pr-fr
N- <i>juger</i> -N	N- <i>juger</i> -N-A	N- <i>juger</i> - $de_f$ N
N- <i>juge</i> -Vinf	*N- <i>juger</i> -Vinf-A	*N- <i>juger</i> - $de_f$ Vinf
*N- <i>juger</i> - $de_p$ Vinf	N- <i>juger</i> - $de_p$ Vinf-A	N- <i>juger</i> -à <i>propos de</i> _Vinf

上では、単独の直接目的としては Vinf は可で  $de_p$ Vinf は不可、A と両立する場合は Vinf は (A も Vinf も *juger* の右では意味解釈上は述辞機能相当になるので) 不可で  $de_p$ Vinf は可 ( $de_p$ Vinf は *juger* の右では意味解釈上 A の主辞機能相当になるので)、というように相補分布になっている

るのが分る。また、単独の間接項 *fr* を取る時は *de<sub>f</sub>N* は可だが *de<sub>f</sub>Vinf* は不可である。ただし、後者を補うべく *à propos de<sub>f</sub>Vinf* が出てくる。更に、間接項 *de<sub>f</sub>N* を取る際はもう一つの間接項 *comme<sub>f</sub>A* のようなものとの両立も可能になる (cf. 4.2.3.1.7.1.1. N-V-*de<sub>f</sub>N-comme<sub>f</sub>A*)。

#### 4.2.2. N-V-*fr*-Autonome (2+2=4)

##### 4.2.2.1. N-V-*der*-Autonome

###### 4.2.2.1.1. N-V-*der*-A

###### 4.2.2.1.1.1. \*N-V-*de*N-A

この構文が不可能なのは頻出の「4.1.3.1.1. N-V-N-A」と比較すると納得できる (cf. *de*N は主辞機能にはなりえない形)。しかし、以下に出てくる「4.2.3.1.7.1.1. N-V-*de*N-*comme*A」と比較するとどうであろうか。

###### 4.2.2.1.2.1 N-V-*de*N-Ad (2+2=4) *de*N: 「対象」, Ad: 「様態・仕方」

(1) L'échec des discussions est venu encore assombrir les perspectives de la société. Frappée de plein fouet par la récession de ses marchés en Europe, Saint-Gobain, sa maison-mère, en a jugé autrement. Le groupe dirigé par Jean-Louis Beffa, qui a vu reculer de 45 % son résultat net consolidé en 1993, à 1,3 milliard de francs (le Monde du 22 janvier), estime désormais [...]. (LM94)

上例での *autrement* は属詞との関連はないが、*négativement*, 等の意味的に属詞と関係しうる副詞との対比ということで取り上げておく (cf. Comment Saint-Gobain en a-t-elle jugé ?)。

#### 4.2.3. N-V-*fr*-*fr* (27+66=93)

##### 4.2.3.1. N-V-*der*-*fr* (27+66=93)

###### 4.2.3.1.1. N-V-*der*-*parr*

###### 4.2.3.1.1.1. N-V-*de*N-*par*N (23+55=78) *de*N: 「対象」, *par*N: 「根拠」

(1) Et le tandem vedette-réalisateur à succès ne fonctionne guère mieux, si on en juge par l'accueil réservé à Delon-Deray unis par un crime, à Zeitoun et Boujenah observant le Nombri du monde, au Profil bas de Zidi avec l'idole Bruel. (LM94)

上の構文が高頻度なのは凝結的な「*en juger par*N」の *en* を *de*N とみなしているからである。この *de*N の N は明確な一名詞を指しているとは限らない。

**4.2.3.1.2. N-V-*der-à*r****4.2.3.1.2.1.1. N-V-*de*N-*à*N** (1+4=5) *de*N: 「対象」, *à*N: 「根拠」

(1) [...] connaissait un de ces épurés... un collabo pas bien méchant qui avait morflé pour je ne sais quelle histoire de marché noir avec les Fritz... une affaire plutôt minable si j'en jugeais aux apparences. – Un type qui a des tas de combines. Ce qu'il m'affirmait... pour l'instant, elles ne l'emmenaient pas dîner à la Tour d'Argent ses combines... (BOUDARD.A / LES ENFANTS DE CHOEUR / 1982 page 49)

**4.2.3.1.3. N-V-*der-sur*r****4.2.3.1.3.1.1. N-V-*de*N-*sur*N** (0+1=1) *de*N: 「対象」, *sur*N: 「根拠・手段」

(1) De sa fenêtre, Bougras jetait du pain aux pigeons. Plus loin, un rémouleur pédalait sur place pour actionner sa meule montée sur une machine grêle, jugeait du fil des couteaux sur son pouce, et agitait de temps en temps sa clochette en jetant d'une voix nasale: « Rémouleur couteaux ciseaux ! » (SABATIER.R / LES ALLUMETTES SUEDOISES / 1969 page 116)

**4.2.3.1.4. N-V-*der-d'après*r****4.2.3.1.4.1.1. N-V-*de*N-*d'après*N** (3+2=5) *de*N: 「対象」, *d'après*N: 「根拠」

(1) [...], qui nous déclara : « C'est un drôle de coco, Monsieur ! à mon avis, ce n'est pas quelqu'un pour vous... » « Que voulait-il dire ? Avait-il deviné qui nous étions ? Ou bien jugeait-il de nos opinions, d'après nos lectures ? était-ce un conseil enveloppé ? Nous n'avons pas osé lui demander d'explication. (ROMILLY.J DE / LES ŒUFS DE PAQUES / 1993 page 94)

上の三構文の二つ目の前置詞句は「根拠」を表す。*à*N, *sur*N は「抽象的位格」でもある。

**4.2.3.1.5. N-V-*der-en*r****4.2.3.1.5.1.1. N-V-*de*N-*en*N** (0+1=1) *de*N: 「対象」, *en*N: 「手段」

(1) Frénétique ou dormeuse, tu n'étais plus tout à fait toi. Je me livrais au calcul fatidique, à la multiplication par sept de ton âge afin d'obtenir un repère, de juger de ton état en termes de vieillesse humaine. (Quelle sottise, au reste, ce bricolage d'années, cette comparaison insensée ! ...) (NOURISSIER.F / LETTRE A MON CHIEN / 1975 page 162)

上では *en termes de* を一まとまりとしてもよい (ただし, *en ces termes* も可)。ここでは *état*

と *vieillesse humaine* のみを考えると意味的には属詞関係も考えうるが、*état* は直接目的ではないし、(en) *termes* (de) はやはり「判断する (*juger*)」ための「表現」、「手段」であろう。

#### 4.2.3.1.6. N-V-*der-à travers*r

##### 4.2.3.1.6.1.1. N-V-*deN-à travers*N (0+2=2) *de*N: 「対象」、*à travers*N: 「根拠」

(1) [...] seulement le crépitement saccadé et assez lent de la mitrailleuse, comme de pure forme lui aussi, futile, assez loin semble-t-il, du moins pour autant qu'il puisse en juger à travers la rumeur de son sang et de son souffle, puis s'abattant sur la haie, basculant, se recevant de l'autre côté sur les mains, ramenant ses jambes, [...]. (SIMON.C / L'ACACIA / 1989 page 88 / IV)

「根拠」、「手段」であるが、位格的ニュアンスは常に認めうる。

#### 4.2.3.1.7. N-V-*der-commer*

##### 4.2.3.1.7.1.1. N-V-*deN-comme*A (0+1=1) *de*N: 「対象」、*comme*A: 属詞

(1) [...] système global qui veut dépasser donc les réformes partielles et adaptatives. Peut-être certains y verront-ils, en se tenant aux détails, des choses existant déjà et jugeront du tout comme peu novateur ; d'autres, réagissant à l'ensemble du système, le jugeront visionnaire. Nous voulons encore attirer l'attention sur un point essentiel. (SCHWARTZ.B / REFLEXIONS PROSPECTIVES / 1969 page 3)

この構文は直接目的属詞構文ではないが、伝統的分析の根拠となっている意味解釈的属詞性を排除できないという意味でかなり重要である。先行研究でこの構文の可能性を指摘したものはないようである。「話題・対象」の *de* がついた *le tout* と *peu novateur* との関係は意味解釈的には正に属詞関係そのものである。「*deN-commeA* (*du tout comme peu novateur*)」をすぐ後でほぼ「N-A (*le ... visionnaire*)」として再び取り上げている点にも注目すべきである。基本的に「N-V-*deN-A*」は不可である (cf. 4.2.2.1.1.1.) が、属詞機能の方が名詞や形容詞に限定されないならば (つまり、前置詞つきの語句にも許容されるならば)、直接目的に前置詞のついた間接目的構文において属詞機能を排除する理由はないことになる。つまり、「間接目的属詞構文」を考慮する必要性が出てくるのではなかろうか。「*juger-N-commeA*」、等において *commeA* を属詞と認めるならば尚更である。(Cf. 上の「4.2.1.6.2. N-V-*à propos de*Vinf」での議論。)

### 4.3. *Sujet-se-Pr-*

(3+24=27)

上の 4.1. の他動詞構文との関係からしてもかなりの頻度が期待出来るところであるが、実際

はかなり少ない (全体の 27/1289=2.09 %)。

#### 4.3.1. N-se-V (0+1=1)

(1) Il est difficile, à la limite, de parler de la pensée, car c'est toujours d'elle qu'il s'agit et c'est elle-même qui se juge. Les hommes s'opposent à la nature, ils la conquièrent, ils la dominent; ils ne peuvent rien contre la pensée, car la pensée, c'est eux-mêmes. (ORMESSON.J D' / LA DOUANE DE MER / 1993 page 150)

#### 4.3.2. N-se-V-Autonomie (1+18=19)

##### 4.3.2.1. N-se-V-A (1+17=18) A: 属詞

(1) Dans un sens, ils proclament qu' "on ne parviendra pas à diminuer le chômage si on ne s'engage collectivement dans cette voie". Mais de l'autre, ils se jugent impuissants. "Il faudrait un Delors pour l'expliquer", déclare un DRH, faisant référence à la "nouvelle société" de Jacques Chaban-Delmas. (LM94)

「N-V-N-A」に呼応するこの構文が多いが、他は少ない。

##### 4.3.2.2. N-se-V-Vé (0+1=1) Vé: 属詞

(1) Mais l'important c'est qu'elle aussi, elle surtout, se jugera satisfaite du partage : quand son ami, par courtoisie ou machinalement, fera mine d'essayer une assiette qu'elle aura lavée, ou de retaper le lit, [...]. (LAINE.P / LA DENTELLIÈRE / 1974 page 124 / III)

#### 4.3.3. N-se-V-fr (2+5=7)

##### 4.3.3.1.1. N-se-V-surN (0+1=1) surN: 「根拠」

(1) Le jour de l'oral de marketing approchait. Et je ne savais toujours pas. Faire un nœud de cravate. Et pourtant, on nous avait prévenus, à la loyale : « L'oral se jugera autant sur votre apparence physique que sur vos connaissances pratiques ou théoriques. » (MANŒUVRE.P / L'ENFANT DU ROCK / 1985 page 85 / 8 TYRANNIE ET MUTATION)

##### 4.3.3.2.1. N-se-V-enN (0+2=2) enN: 属詞

(1) Il est clair en tout cas que, pour les uns comme pour les autres, je ne me situe pas ici avec la netteté qu'on se juge en droit d'exiger de moi. C'est que non seulement toute appartenance à une école littéraire,

lorsqu'il ne s'agit pas précisément de son noyau fondateur, reste par essence [...]. (GRACQ.J / CARNETS DU GRAND CHEMIN / 1992 page 171)

*en droit de* は凝結化している。

#### 4.3.3.3.1. N-se-V-commeN (0+1=1) *comme*N: 属詞

(1) [...] Jean Beaufret m'apprit que mon nom ne figurait pas sur la liste des admissibles du concours d'agrégation. Ma révolte fut d'autant plus passionnée que je me jugeais carrément comme le meilleur de ma génération. En fait mes années d'études en Allemagne qui justifiaient cette prétention n'avaient fait que m'éloigner irrémédiablement [...]. (TOURNIER.M / LE VENT PARACLET / 1977 page 163 / III)

#### 4.3.3.4.1. N-se-V-àN (0+1=1) *à*N: 「根拠」

(1) [...] prématuré de couper un arbre qui a donné de bons fruits, sous prétexte qu'il en produit trop peu ou les fait mûrir trop lentement. Nous savons aussi que les jeunes arbres ne se jugent qu'à leurs fruits, et qu'en matière de civilisations, les récoltes ne sont pas annuelles, mais séculaires ou millénaires; [...]. (FOURASTIE.J / LE GRAND ESPOIR DU 20E SIECLE / 1969 page 360)

上では「N-se-juger-àN-et-en matière deN」のように等位されている。「*en matière de*N」は「限定・話題」を示す。

#### 4.3.3.5.1. N-se-V-entreN (1+0=1) *entre*N: 位格

(1) [...], par les deux assemblées, d'une mise en accusation en termes identiques, les membres du gouvernement bénéficiaient depuis 1958 d'une immunité pénale de fait. "Les Français, constatait le garde des sceaux, Pierre Méhaignerie, avant la cérémonie, avaient le sentiment que les hommes politiques se jugeaient entre eux." La commission des requêtes, qui recevra les plaintes, siégera au 21, rue de Constantine, à Paris. (LM94)

*entre eux* は文字通りには位格であろうが, *par eux(-mêmes)*との関係で「動作主 (agent)」との関連も考えられる。

#### 4.3.3.6.1. N-se-V-en fonction deN (1+0=1) *en fonction de*N: 「根拠・仕方」

(1) IL existe des modes verbales. Souvent elles traduisent des modes de la pensée. Peu de mots sont autant galvaudés ces temps-ci que celui d'identité. Sous sa forme la plus réductrice : chacun n'aurait qu'une seule identité, se trouverait défini par elle, se verrait juger, serait appelé à se juger en fonction d'elle. Alors que chacun d'entre nous a des identités multiples, [...]. (LM94)

#### 4.4. Sujet-*être*Vé- (212+125=337)

受動構文は上の 4.3. の代名動詞構文とは違ってかなり高頻度である。ただし、受動文という形ではなくて、名詞の修飾句となっている多くのものも含めている。

##### 4.4.1. N-*être*Vé (18+15=33)

(1) Jusqu'à ce 3 août 1993 où le quotidien Haaretz, après avoir engagé un recours devant la Cour suprême, obtint la levée de l'interdit, il n'était pas permis d'écrire que cet homme avait été arrêté, jugé, condamné et emprisonné. Même ces faits bruts, presque neutres, relevaient du secret d'Etat. Dix ans de silence, au terme desquels on n'en sait pourtant guère plus. (LM94)

##### 4.4.1.1. N-Vé (10+2=12)

(1) Dans la cellule 473, c'est un écrivain, critique littéraire aux Lettres françaises, à la NRF, Jean Vaudal, qui précise : "Arrêté le 6 juillet 1944. Au secret jusqu'au 10, parti pour l'Allemagne, non jugé le 10 août. Torturé les 6 et 7 juillet". Quand la Gestapo l'arrêta, cet ingénieur qui avait dirigé la Résistance dans la région d'Engghien-Montmorency, caché des parachutistes anglais, [...]. (LM94)

##### 4.4.2. DI-*être*Vé (1+0=1)

(1) "Attention aux tendances corporatistes et aux risques séparatistes". Et, prêchant la "solidarité", d'évoquer en filigrane les tensions entre un "Nord riche et un Sud plus pauvre", aussi bien que le pouvoir démesuré des juges : "Qui est coupable sera jugé, mais il est évident qu'une société bien conçue ne peut s'en remettre, sur les décisions qui concernent son futur, qu'aux seules autorités judiciaires. (LM94)

疑問詞を含む間接話法節が主辞となっているものはこれのみである。

##### 4.4.3. N-*être*Vé-Positionnel (0+3=3)

##### 4.4.3.1. N<sub>1</sub>-*être*Vé-N<sub>2</sub> (0+1=1) N<sub>2</sub>: 属詞

(1) La femme au petit nez sortit un poudrier laqué et son compagnon haussa les épaules et commanda un

kummel. Plus tard, deux hommes et deux femmes entrèrent et furent jugés « plumes ». Ils se placèrent au fond de la salle dans un angle, après en avoir délibéré en riant commandèrent une bouteille de champagne et, [...]. (SABATIER.R / LES FILLETTES CHANTANTES / 1980 page 247)

#### 4.4.3.1.1. N<sub>1</sub>-Vé-N<sub>2</sub> (0+2=2) N<sub>2</sub>: 属詞

(1) En dehors de ses petites séances de dessin en plein air après la cure de silence, il ne sortait pas lerche, il ne se mêlait de rien, jactait à personne à table. Jugé encore plus ours, plus butor que moi. Il m'évitait le plus souvent, s'arrangeait pour qu'on ne se croise pas. (BOUDARD.A / LES ENFANTS DE CHŒUR / 1982 page 93)

#### 4.4.4. N-*être*Vé-Autonomie (108+41=149)

##### 4.4.4.1. N-*être*Vé-A (27+20=47) A: 属詞

(1) "A partir de leur scolarité jusque dans leur formation continue, on persiste à faire tirer les policiers sur des cibles représentant un homme-tronc dans une position statique et où le tir sera jugé excellent s'il atteint l'un des organes vitaux !" Aussi le syndicat demande-t-il au ministre de se décider "enfin à réformer cette mauvaise habitude [...]. (LM94)

##### 4.4.4.1.1. N-Vé-A (66+15=81) A: 属詞

(1) Promiscuité : du latin promiscuus, commun. Le dictionnaire précise à juste titre : « Situation d'une personne placée dans un voisinage jugé désagréable ou choquant. » On lui conseillera donc de garder son sang-froid minute par minute, et de se mettre le plus souvent possible, fût-ce en imagination, dans la situation [...]. (SOLLERS.P / LE SECRET / 1993 page 145 / II).

受動関係の構文では上の「N-*être*Vé-A, N-Vé-A」の二種が最も多い。上の 4.4.3., 下の 4.4.4.2., 4.4.4.3. も含めて受動では属詞つきのものが目立つ。

##### 4.4.4.2. N-*être*Vé-Vé (3+2=4) Vé: 属詞

(1) [...], et la différence nationale n'est appliquée qu'aux échelons inférieurs et moyens. Telle quelle, une telle concession est vite jugée dépassée. Le 7 mars 1938, de nouvelles lois vont modifier radicalement la physionomie de l'armée et mettre fin au « libéralisme » national qui a présidé à son organisation [...]. (CARRERE D'ENCAUSSE.H / L'EMPIRE ECLATE / 1978 page 195 / CHAPITRE IV LES FORCES D'INTÉGRATION POUVOIR POLITIQUE ET MILITAIRE)

**4.4.4.2.1. N-Vé-Vé** (8+0=8) Vé: 属詞

(1) La révolte montante s'explique en partie par le poids général des impôts, jugé trop élevé. Mais les chrétiens critiquent aussi un service de Dieu qui leur coûte 10 % de contribution supplémentaire. Ce mouvement est alimenté par des articles de presse sur des dépenses, [...]. (LM94)

**4.4.4.3. N-êtreVé-Ad** (4+4=8) Ad: 属詞

(1) Je comprenais qu'Avdotia ne pouvait se permettre un tel abandon que dans l'appartement de ma grand-mère. Car elle était sûre de ne pas être rabouée ni mal jugée... Elle finissait sa pénible tournée, courbée sous le poids des énormes bidons. Et quand tout le lait était épuisé, elle montait chez « Choura », [...]. (MAKINE.A / LE TESTAMENT FRANCAIS / 1995 page 31 / I, 2)

上の mal は不変化で副詞扱いであるが、形容詞に近く属詞的働きである。

**4.4.5. N-êtreVé-fr** (31+14=45)**4.4.5.1.1. N-êtreVé-pourN** (9+3=12) pourN: 「原因」

(1) L'ancien premier ministre communiste et ex-premier secrétaire du Parti ouvrier unifié polonais (POUP, dissous en 1990), Mieczyslaw Rakowski, sera jugé pour transfert illégal en Pologne de 1,23 million de dollars en 1990, l'acte d'accusation dans cette affaire ayant été transmis, jeudi 30 décembre, au tribunal de Varsovie. (LM94)

**4.4.5.1.1.1. N-Vé-pourN** (1+0=1) pourN: 「原因」

(1) [...], et appréciant qu'un jeune artiste s'intéresse aujourd'hui à ces événements et les traite de façon actuelle, même s'il y mêle un brin d'ironie. Ironie dont n'était pas dépourvu le général Jodl : si l'on en croit Casamayor, il en fit preuve tout au long de son procès. Jugé pour crimes de guerre, il a été pendu à Nuremberg le 16 octobre 1946. Un porte-parole de Paul McCartney a démenti que le chanteur, George Harrison et Ringo Starr donneraient un concert cet été [...]. (LM94)

**4.4.5.1.1.2. N-Vé-pourVinf** (1+0=1) pourVinf: 「原因」

(1) L'instruction du dossier Noir-Botton approche de son terme, tandis qu'une information judiciaire contre X... pour "escroquerie" et "abus de confiance" visant les comptes bancaires du maire de Lyon progresse actuellement au cabinet du juge, Philippe Courroye. Lorena Bobbit, jugée pour avoir tranché

le pénis de son mari John avec un couteau de cuisine, dans la nuit du 22 au 23 juin 1993, a été acquittée, vendredi 21 janvier, par un jury de Manassa (Virginie). (LM94)

#### 4.4.5.2.1. N-*êtreVé-dans*N (1+0=1) *dans*N: 位格

(1) [...], a comparu mercredi 12 janvier devant un tribunal de Berlin. Cette attaque contre le centre culturel français de Berlin-Ouest avait fait un mort et vingt-trois blessés. C'est la première fois depuis la disparition de la RDA qu'un ancien responsable de la Stasi est jugé dans une affaire de terrorisme. (LM94)

上の *dans une affaire* は文字通りには位格であろうが、「根拠」、「関連」を示す。

#### 4.4.5.3. N- *êtreVé-commer*

##### 4.4.5.3.1. N-*êtreVé-comme*N (2+1=3) *comme*N: 属詞

(1) Dispositions : le traité est purement défensif et concerne une zone géographique déterminée (Europe, Amérique et océan Atlantique au nord du tropique du Cancer). Une attaque contre l'un des membres est jugée comme une attaque contre toutes les parties : le traité laisse toutefois chaque Etat juge de la nature de sa riposte (article 5). (LM94)

##### 4.4.5.3.1.1. N-*Vé-comme*N (2+1=3) *comme*N: 属詞

(1) Le midi, courses chez le traiteur d'en face pour certaines : salade bien sûr, choucroute jamais. Boîtes de Slim-Fast prêtes à l'emploi pour les accrocs des kilos en trop et le déjeuner démarre souvent autour du bureau de celle jugée comme la meneuse de bande : commentaires rituels sur les chaussures de Cécile ou la nouvelle coiffure d'Elisabeth. (LM94)

##### 4.4.5.3.2. N-*êtreVé-comme*A (1+0=1) *comme*A: 属詞

(1) Son image de femme séductrice, riche de surcroît, correspondait à l'idéal de nombreux Turcs et lui donnait une place à part sur la scène politique. Elle a aujourd'hui rejoint les rangs des politiques ordinaires, et est désormais jugée comme telle. Dans les coulisses de son Parti de la juste voie, ses rivaux mettent déjà leurs pions en place pour préparer sa succession. (LM94)

##### 4.4.5.4.1. N-*êtreVé-par*N (5+7=12) *par*N: 「動作主」

(1) Mais, au-delà de la vindicte, Alfred Dreyfus subit aussi l'odieux et classique hallali infligé aux

présûmés coupables ordinaires. Le préjugement. La boue sur sa vie privée. Les ragots de basse police. Avant même d'être jugé par un conseil de guerre, Dreyfus est condamné. Le général Mercier déclare martialement au Figaro : "Les preuves sont accablantes. (LM94)

#### 4.4.5.4.1.1. N-Vé-parN (1+0=1) parN: 「動作主」

(1) Palestrina en Champagne. Le chœur Akademia, un ensemble vocal régional de Champagne-Ardenne, dirigé par Françoise Lassere, a remporté le Concours Palestrina de Paris devant 76 ensembles, jugés par un jury international, ce qui lui a valu de se produire à Rome, Palestrina et Milan, en janvier dernier. (LM94)

#### 4.4.5.5.1. N-êtreVé-devantN (3+0=3) devantN: 位格

(1) [...], a suscité un tollé au sein de l'opposition et des organisations de défense des droits de l'homme. L'implication d'un "commando de la mort" de l'armée pratiquement assuré de l'impunité en étant jugé devant une cour martiale dans cette tuerie avait été dénoncée par un général, qui a dû s'exiler. (LM94)

devant une cour martiale は位格だが, 「動作主」 parN と比較すべき例である。

#### 4.4.5.6.1. N-êtreVé-par rapport àN (0+1=1) par rapport àN: 「根拠」

(1) [...] : une heure ci, trois quarts d'heure ça... c'est un rythme impossible pour les enfants; il ne rime à rien. C'est faux. Ce n'est pas la vie. Si chaque matière était jugée par rapport à elle-même, ça ne serait pas écrasant pour l'enfant. Ce qui est écrasant, c'est la programmation : programme 1, programme 2... (DOLTO.F / LA CAUSE DES ENFANTS / 1985 page 428 / TROISIÈME PARTIE UTOPIES POUR DEMAIN)

#### 4.4.5.7.1. N-êtreVé-àN (1+0=1) àN: 「根拠・手段」

(1) Le taux de l'inflation en 1993 a varié entre 30 % et 40 %. Le déficit de l'Etat se creusant, il devrait être à peu près le même en 1994. La planche à billets fonctionne à plein rendement. Même s'il ne doit pas être jugé à l'aune de critères occidentaux, en raison du système de solidarité familiale et sociale, le taux de chômage est de 35 %, et la mendicité est très répandue. (LM94)

#### 4.4.5.8.1. N-êtreVé-surN (4+0=4) surN: 「根拠」

(1) Un pragmatisme semblable anime une école de commerce, l'ISC, qui, difficultés d'emploi aidant, considère que les seuls critères de qualité pédagogiques ne suffisent plus. Désormais, un établissement

doit être jugé sur sa capacité à favoriser le placement des jeunes diplômés. Pour ce faire, affirmant que "les écoles sont entrées dans l'économie de marché", elle s'est engagée dans un partenariat [...]. (LM94)

#### 4.4.5.9.1. N-*être*Vé-*sous*N (0+0=0)

##### 4.4.5.9.1.1. N-Vé-*sous*N (0+1=1) *sous*N: 「観点」

(1) [...] du point de vue même des bêtes, maintenant, on constate que la signification des bois dépasse leur usage comme armes de combat. En effet la ramure d'un Hochkapitaler jugée sous un point de vue purement pratique ne peut être que condamnée, comme encombrante et malaisée. (TOURNIER.M / LE ROI DES AULNES / 1970 page 337 / IV L'OGRE DE ROMINTEN)

#### 4.4.6. N-*être*Vé-Positionnel-fr (1+0=1)

##### 4.4.6.1.1.1. N-*être*Vé-N-*par*N (0+0=0)

##### 4.4.6.1.1.1.1. N<sub>1</sub>-Vé-N<sub>2</sub>-*par*N (1+0=1) N<sub>2</sub>: 属詞 *par*N: 「動作主」

(1) [...], au lendemain de la visite d'une délégation du FMI, le gouvernement algérien avait fait savoir qu'il était prêt à conclure un accord avec le Fonds, accompagné d'un "reprofilage multilatéral" de sa dette. On ignore toutefois si, par "reprofilage", Alger entend "rééchelonnement" terme jugé tabou par les précédents gouvernements. Par ailleurs, le ministre délégué au budget, Ali Brahiti, a annoncé, mercredi, à Alger, que son pays importerait pour 7,7 milliards de dollars en 1994, [...]. (LM94)

#### 4.4.7. N-*être*Vé-Autonomie-fr (41+49=90)

##### 4.4.7.1. N-*être*Vé-A-fr (39+10=49)

##### 4.4.7.1.1.1. N-*être*Vé-A-*par*N (20+4=24) A: 属詞, *par*N: 「動作主」

(1) [...], qui avait déclaré d'utilité publique le projet de réalisation de la première ligne de métro VAL de l'agglomération rennaise et de ses opérations d'accompagnement. Le dossier, soumis à l'enquête préalable à la déclaration d'utilité publique qui s'était déroulée en mai et juin 1992, a été jugé incomplet par le tribunal administratif, en raison de l'absence de l'analyse des conditions et des coûts d'entretien et de renouvellement de l'installation projetée, de ses coûts d'exploitation [...]. (LM94)

##### 4.4.7.1.1.1.1. N-Vé-A-*par*N (18+6=24) A: 属詞, *par*N: 「動作主」

(1) Quant à l'université, loin de se montrer neutre dans le conflit opposant les Vasarely à Charles Debbasch, elle a choisi de s'associer à toutes les procédures civiles de l'ancien doyen contre les Vasarely. Elle a fait paraître sous son nom, en juin 1993, un Livre blanc jugé diffamatoire par la famille Vasarely.

POUR une fois, les cordonniers ne seraient pas les plus mal chaussés. (LM94)

上のように「動作主」*parN* つきでも属詞形容詞と両立する例が目立つ。

**4.4.7.1.2.1. N-êtreVé-A-par rapport àN** (1+0=1) A: 属詞, *par rapport à-N*: 「根拠」

(1) D'un montant de 2 milliards de francs à échéance 2001, dirigé par le Crédit lyonnais, cet emprunt a reçu un accueil mitigé, malgré la prestigieuse notation AAA qui lui est attachée : l'écart de 0,14 point au-dessus de l'OAT correspondante a été jugé un peu maigre par rapport à celui de 0,20 qu'offraient, il y a quinze jours, les trois milliards de francs du Crédit local de France, noté AAA également, sous l'égide de la Société générale. (LM94)

**4.4.7.2. N-êtreVé-Vé-fr** (2+0=2)

**4.4.7.2.1.1. N-êtreVé-Vé-parN** (1+0=1) Vé: 属詞, *parN*: 「動作主」

(1) Ils sont plus critiques sur le fonctionnement de cette dernière : 47 % d'entre eux le jugent non satisfaisant, contre 39 % au RPR (chez les nouveaux députés, on compte 48 % de mécontents à l'UDF, 33 % au RPR), particulièrement pour ce qui est de la fonction de contrôle du gouvernement : elle est jugée par l'UDF insuffisamment remplie (55 %), cette appréciation étant forte chez les députés expérimentés 66 % d'entre eux la partagent, alors que 54 % des députés du RPR affirment l'inverse. (LM94)

**4.4.7.2.1.2.1. N-Vé-Vé-par rapport àN** (1+0=1) Vé: 属詞, *par rapport à-N*: 「根拠」

(1) "La France ne vit pas au rythme de Paris." Propulsé rédacteur en chef et présentateur du journal de la mi-journée le 22 février 1988, il met à l'antenne une édition en rupture complète avec la formule Mourousi, jugée "déconnectée par rapport aux préoccupations des téléspectateurs". Pour faire du "13 heures" un grand journal d'informations nationales traitant à égalité l'actualité à Paris [...]. (LM94)

**4.4.8. N-êtreVé-fr-fr** (3+0=3)

**4.4.8.1.1.1.1. N-êtreVé-deN-parN** (0+0=0)

**4.4.8.1.1.1.1.1. N-Vé-deN-parN** (1+0=1) *deN*: 属詞, *parN*: 「動作主」

(1) Dans un passage expurgé du compte rendu officiel de la réunion, mais récemment retrouvé dans les bureaux de la fondation, l'ancien doyen s'en prend à un membre de la famille Vasarely dans des termes jugés d'une "incroyable grossièreté" par un témoin de la scène. (LM94)

#### 4.4.8.2.1.1.1. N-*être*Vé-*sur*N-*par*N (1+0=1) *sur*N: 「根拠」, *par*N: 「動作主」

(1) En effet, leurs travaux de recherche, utiles ou non pour l'entreprise, sont une fin en soi car ils sont susceptibles d'être publiés dans des revues à caractère scientifique ou intégrés dans des colloques. Or c'est justement sur ce palmarès de "citations" qu'ils sont jugés par leurs instances internes pour obtenir les précieux mais rares financements ou les promotions internes. Quant aux entreprises, elles consultent très modérément les revues. (LM94)

#### 4.4.8.3.1.1.1. N-*être*Vé-*comme*N-*par*N (0+0=0)

##### 4.4.8.3.1.1.1.1. N-Vé-*comme*N-*par*N (1+0=1) *comme*N: 属詞, *par*N: 「動作主」

(1) Les Grecs ont posé trois conditions pour la reprise de ce dialogue : l'abandon de l'utilisation sur le drapeau de la FYROM de l'étoile à seize branches de Vergina (un symbole de la dynastie macédonienne antique), la suppression de références et d'articles de la Constitution macédonienne jugés par Athènes comme "irrédundistes", et, enfin, l'arrêt de la "propagande hostile" contre la Grèce. Il est toujours exclu que la question taboue du nom soit l'objet de tractations : [...]. (LM94)

### 4.5. Sujet-Pr (7+30=37)

#### 4.5.1. N-V (7+30=37)

(1) Les rêves de gloire sont morts. Son unique consolation tient en une phrase non dite : sans moi les choses auraient peut-être été pires... L'Histoire jugera. Christian Dior, l'une des sociétés actionnaires de LVMH (Moët Hennessy-Louis Vuitton) prépare une augmentation de capital de 5 milliards de francs. (LM94)

### 4.6. Sujet-Pr-Autonome- (0+1=1)

#### 4.6.1. N-V-Autonome

##### 4.6.1.1. N-V-A (0+1=1) A: 属詞

*juger* は *devenir* のような属詞動詞ではないが、直接目的が出てこない場合は「N-V-A」の形になる。これは勿論文脈に依存してのことではあるが、いわゆる属詞が直接目的なしでは出現不可能であるということではないことを確認しよう。下の例では「形容詞 *bon* は動詞の直接の項」という解釈以外はありえない (cf. 以下の 5.3.)。

(1) – Nous intervenons, puisqu'il y a du nouveau ici... – Bien sûr ! Bien sûr ! Vous avez la faculté

d'intervenir aussi souvent et aussi longtemps que vous jugerez bon.. Je vous rappelle, chers auditeurs, si vous prenez notre émission en route, que nous sommes en direct – j'insiste, en direct – depuis les lieux du drame qui se joue [...]. (VAUTRIN.J / BILLY-ZE-KICK / 1974 page 198)

#### 4.7. *Sujet-être-*

#### 4.8. *II-Pr-*

#### 4.9. *Pr-*

4.7. は *être* 構文。4.8. は非人称構文 (これは *juger* では不可ではないが実例はなかった)。4.9. は定形 (命令形を除く) で主辞がない場合である。何れも例はない。

#### 4.10. 非動詞文 (1+11= 12)

これは *juger* の定形以外の形で独立文を構成する場合である。全体の外心性 (*exocentrique*: 一つの核にまとまりきらない関係) が文としての独立を支えている場合が多い。

##### 4.10.1. *Positionnel*

###### 4.10.1.1.1. *Vinf(-deN)* (0+2=2) *deN*: 「対象」

(1) [...], scruter les radios, pratiquer à la manière des chirurgiens des sondages filiformes faits au scalpel sous le microscope, tant de fois se pencher sur la grabataire, juger de l'hygrométrie, débusquer ces vrillettes qui croquent avec autant d'appétit nos buffets de cuisine que le retable de la Madone ; [...]. (RHEIMS.M / LES GRENIERS DE SIENNE / 1987 page 35 / I)

(2) Tous mes sens augmentés de toute mon expérience sont mobilisés, tendus vers l'être noir et inconnu dont je peux entendre la respiration. Appeler. Être appelé. Tout un art. Juger vite – et le plus souvent dans l'ombre – de la réalité de l'appel et de sa qualité. Ne pas se tromper. Les erreurs coûtent cher. (TOURNIER.M / LES METEORES / 1975 page 126 / CHAPITRE V)

上では *Vinf* (*juger*) を支える外心構造はない。積極的にではないが、文脈から独立していること (つまり、先行文にも後続文にも従属していない) が認められる。

##### 4.10.2. *Positionnel-Positionnel-?*

###### 4.10.2.1.1. *N, -Vinf-?* (0+1=1)

(1) – Vous êtes fou. D'ailleurs, vous changez le texte. Tu es fou. Je t'aime. – Je ne vous demande

pas si vous avez joui. – Je vous laisse juge. – Moi, juger ? Mais comment ? – Sous votre noir poison je sens brûler mon sang. – Un peu de champagne ? – Mais oui. Mes cigarettes sont dans mon sac, sur le divan. (SOLLERS.P / LE CŒUR ABSOLU / 1987 page 81)

上例では *Moi* と *juger* のどちらをこの非動詞文の述辞（＝文の統辞的中心）とするかは難しい。しかし、フランス語では定型動詞文（＝名詞主辞+動詞述辞）が圧倒的であるので、他の要因がなければ、活用していなくても、*juger* の方を述辞とする方が無難であろう。

どちらかに機能指示詞でもついていれば、そうでない方を述辞とみなしうる。上例では二つの位置依存辞（代名詞強勢形の *Moi* と不定詞 *juger*：どちらも主辞、直接目的の両機能を担う）が外心的に並列の関係にあり、この外心性が文の独立性の支えとなっていると考えられる。

#### 4.10.3. Positonnal-Autonomie-?

##### 4.10.3.1.1.1. Vinf(-N)-Ad-? (0+3=3) Ad: 属詞

(1) [...] disparaître en laissant des dettes, des ardoises partout qui frisent l'escroquerie. Pfuit ! évaporé l'ancêtre...! Par lâcheté, folie, désespoir peut-être. Comment le juger aujourd'hui soixante-dix ou quatre-vingts ans plus tard? Les éléments du dossier je ne les ai pas et ce n'est pas à moi de tirer une morale de tout ça. (BOUDARD.A / MOURIR D'ENFANCE / 1995 page 63 / 3.)

*comment* は属詞に対応するとは限らないが、属詞の可能性を考えるべきである。不定詞 *Vinf* につく *N* は *Vinf* の内心（endocentrique: 一つの核にまとまる）構造の一部である。

##### 4.10.3.1.1.2. Vinf(-queV)-Ad-? (1+0=1) Ad: 属詞

(1) Or c'est cette foi que cherchent à entretenir, à exciter, des dirigeants, d'autant plus intolérants ici et là qu'ils sentent trembler les fondements de leur légitimité. Comment juger que la liberté du roman l'invention de l'écrivain qui trouve en lui une nouvelle ressource d'expression soit étrangère aux libertés dont les hommes cherchent à jouir dans la vie sociale ? (LM94)

##### 4.10.3.1.1.3. Vinf(-DI)-Ad-? (0+1=1) Ad: 属詞

(1) [...] chaque indication du texte fera lever dans l'esprit du lecteur souvenir, attente, pressentiment. Mais il ne sait pas au juste lesquels : comment juger s'il les comblera ? Car le poète, lui, a lieu de compter sur les lecteurs de son poème : [...]. (GRACQ.J / EN LISANT EN ECRIVANT / 1980 page 132)

**4.10.3.1.1.4. Vinf(-deN)-Ad-?** (0+1=1) Ad: 属詞

(1) Car il n'y a pas seulement l'avenir pour nous rester fermé, opaque, inaccessible : même fixés par l'image, les temps évanouis nous échappent à jamais. Comment juger de la beauté hors de notre âge et de notre étroite culture ? Nous avons souvent du mal à nous assurer de nous-même, de notre propre passé, de ce que nous étions il y a vingt ans, [...]. (ORMESSON.J D' / AU PLAISIR DE DIEU / 1974 page 100 / PREMIÈRE PARTIE)

**4.10.4. Positionnel, -Autonome****4.10.4.1.1.1. Vinf(-N), -Ad** (0+1=1) Ad: 述辞

(1) [...] appartenance à une collectivité raciale ou religieuse, mais aussi contre les adversaires de cette politique, quelle que soit la forme de cette opposition. » Frénard : – Juger les nazis et les collaborateurs des nazis, très bien, mais les staliniens, les anciens staliniens reconvertis, les collaborateurs internationaux du plan [...]. (SOLLERS.P / LE SECRET / 1993 page 193 / II)

上の 4.10.4.1.1.1. では Ad (très bien: この bien は不変化だが殆ど形容詞) を述部とみなすべきであろう。これに対して, 4.10.3.1.1.1.~4.10.3.1.1.4. では Vinf (juger) が述部である。

**4.10.5. Positionnel-fr-?****4.10.5.1.1.1.1. Vinf(-queV)-selonN-?** (0+1=1) selonN: 「根拠」

(1) [...] ont pu léser un enfant ou le groupe d'enfants observés, les résultats vont profiter à tous les autres enfants à venir. Comment prouver le contraire ? Selon quel critère juger à l'avance que tel essai est peut-être nuisible, peu nécessaire, parfois même complètement inutile ? La curiosité propre à l'esprit humain ne justifie pas tout. (DOLTO.F / LA CAUSE DES ENFANTS / 1985 page 131 / PREMIÈRE PARTIE)

**4.10.6. CC-Positionnel-Autonome-Autonome-?** (CC: 等位接続詞)**4.10.6.1.1.1.1. CC-Vinf(-N)-Ad<sub>1</sub>-Ad<sub>2</sub>-?** (0+1=1) Ad<sub>2</sub> (comment): 属詞

(1) C'est la première fois depuis le départ de Jean que je dissipe le malentendu. Je devine ses pensées. D'abord elle ne me croit pas. Mais alors comment juger un homme qui tente tout à coup de s'effacer, de disparaître en se faisant passer pour un frère-pareil ? La ruse est inadmissible, grossière, impardonnable. (TOURNIER.M / LES METEORES / 1975 page 452 / CHAPITRE XV)

「CC-Vinf(-N)-Ad-Ad-?」では文の独立性に貢献している要素を全て構成要素として挙げてある。等位接続詞の *mais* は一文中では副詞的機能を担う。 $Ad_1$  (*alors*) は等位接続に近い機能である。要素配列順も関係して、Vinf と CC, Vinf と  $Ad_1$ ,  $Ad_2$  の関係は外心的である。これは独立性を支えている重要要因となっている。

## 5. 直接目的属詞構文の問題点

5.1. 4. では伝統的に「直接目的属詞」とされるものに特に注意を払いつつ *juger* の構文全体を見てきた。それは *juger* の属詞構文とされるものも他の構文と対立しつつ *juger* の構文体系全体の一部を成して全体の中での位置づけにより明確に把握しうるからである。

全体を調べる必要があるのは意味解釈に基づき通常「属詞」とされるものが名詞や形容詞 (N-V-N-N: *On juge le mariage une idée bouffonne*, N-V-N-A: *On juge une libéralisation nécessaire*) に限らず前置詞つきの名詞をも含む (N-V-N-*sans*N: *On juge ce travail sans importance*) からである。この意味解釈は *être* による書き換え (*paraphrase*) であり、これは端的には「 $N_0$ -V-*que*- $N_1$ -*être*- $[N_2/A_2]$ 」→「 $N_0$ -V- $N_1$ - $[N_2/A_2]$ 」という派生につながる。しかし、この種の意味解釈を徹底するならば、*être* が解釈的に認められそうなどころには全て属詞を認めなければならないことになる。例えば、「N-V-*de*N-*comme*A: *On juge du tout comme peu novateur*」において *Le tout est peu novateur* との関連を排除する理由はない。元にあるとされる構文の主辞にあたるもの (*le tout*) に前置詞 *de* がついているという点はこの解釈を採用しない理由にはならない。上の派生で *être* を「消去」したように *de* も「付加」したと考えればいからである。

また、*On la juge négativement* のような文も簡単に排除出来ないのは「*Comment la juge-t-on ?* → *On la juge [négative/négativement]*」のような関係が考えうるからである。*Comment* は直接目的の「様態」か述辞 *juger* の「様態・仕方」の両方に対応しうる。この場合、*On la juge négative* は *Elle est négative* と、*On la juge négativement* は *Le jugement est négatif* とのつながりを考えるのが自然であるが、*Elle est négative* と *Le jugement est négatif* とにはどのような関係があるのか。両者は意味解釈的に無関係とも言い切れないであろう。つまり、*être* 文との意味解釈的關係を問題にするならば、その可能性を全構文体系で見る必要があるということである。

5.2. 次に、やはり具体事例の体系的調査で気づくことだが、典型的に直接目的属詞とされる構文の構成項の範列 (*paradigme*) を詳しく見る必要がある。例えば、「 $N_0$ -V- $N_1$ - $N_2$ 」において  $N_1$  と  $N_2$  の範列を考えると、6 種全ての位置依存辞 (=名詞句相当: N/Vinf/*de*Vinf/*que*V/DD/DI) は無理としても、「 $N_0$ -V- $[N_1/de$ Vinf/*que*V $_1$ ]- $[N_2/Vinf_2]$ 」くらいのもの組合せの実例は容易に見つかるのである。動詞の右の第一項は直接目的なので(しかし、これも上記の「N-V-*de*N-*comme*A」

をどうするか), 名詞句相当以外は考えないとしても, 第二項としては  $A_2$  として形容詞が入りうるし, 前置詞つき名詞も入ることになる。第二項に不定詞  $V_{inf_2}$  を認めた段階 ( $V_{inf_2}$  も名詞句相当) で既に第一項と第二項の関係は être 文による書き換えの域を越えることになる。例えば, *On juge Luc avoir raison* と *On juge Luc raisonnable* とを比較して, *avoir raison* と *raisonnable* とが共通の範列 (これを「属詞」と呼ぶかどうかは重要ではない) に入ること排除するのは困難であろう。というのは, 正に意味解釈的観点から「主辞 Luc—述部 [*avoir raison/raisonnable*]」という共通性が認められるからである。この形式的共通性の認定はいわゆる属詞の意味解釈的認定より重要である。

5.3. 構文の中で統辞機能を担う各単位・グループという観点から「 $N_0-V-N_1-[N_2/A_2]$ 」の「 $N_1-[N_2/A_2]$ 」の部分を検討してみよう。直接目的属詞構文を *que* つきの être 構文から派生させる考えによると「 $N_1-[N_2/A_2]$ 」も「*que-N\_1-être-[N\_2/A\_2]*」も述辞機能付与 (prédication) の節 (proposition) であることになる。

しかし, ここには少なくとも統辞機能を担う形の観点からの混同がある。まず, 意味的には確かに両者に述辞化的なものは認められる。しかし, 形としては後者のみにそれは認められる。節の認定についても同様である。そもそも前者は 2 項であり, 後者は 1 項である。この事実にはっきりとしていて, 後者は名詞句が担う機能を基本的に全て担うことが出来るが, 前者はどのような構文, 文脈においても唯一の統辞機能を担うことは出来ない。つまり, 後者は一まとまりの内心 (endocentrique) 構造をなしているが, 前者は外心 (exocentrique) 構造なのである。述辞核の周りに等位接続なしで両立する (compatible) 第一次機能 (fonction primaire) を担う要素の相互の間関係は全て外心的 (=一つにまとまらずに両立する) なのである。「 $N_1-[N_2/A_2]$ 」ではそれぞれが述辞の  $V$  に係り,  $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  の間の特殊に見える関係は  $V$  を通してのみ実現する。これに対して「*que-N\_1-être-[N\_2/A\_2]*」の方は全体で  $V$  に係っている。

また, この *que* つきの節の形式上の核は être なので, être が全体をまとめて述辞  $V$  に係るとしてもよい (更に *que* が全体をまとめていることも重要である)。伝統的意味的観方や機能的観点からすると「 $N_0-être-[N_1/A_1]$ 」で être の後続要素が述辞で「*être-[N\_1/A\_1]*」は述部ということになるが, 構文型特徴の観点からは, être 属詞文の中心が être であることに疑いはない (例えば, être の構文として, *Luc est content*→*Luc l'est*, *Luc est à Paris*→*Luc y est*, *Cela est même si cela ne vous plaît pas*, 等を比較)。

直接目的属詞構文で「 $N_1-[N_2/A_2]$ 」の特殊性を強調するために, 述辞動詞の項としては  $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  の二つがあるのではなくて,  $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  を結ぶ「関係」(これはどのような関係か) が一つの項を成すという観方がある (cf. BLANCHE-BENVENISTE (1991), p. 87)。これは G.

Guillaume の入射 (incidence) という考え方に近いが、統辞分析で広く利用され Blanche-Benveniste も実践しているはずの L. Tesnière 以来の結合価 (valence) と Z. Harris 以来の分布 (distribution) ・連鎖分析 (string analysis) の根幹に抵触するのではなからうか。Blanche-Benveniste が  $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  との関係そのものを一項とするのは両者が相互に依存していてそれぞれに自律性がないからである。しかし、「4.6.1.1. N-V-A: Vous avez la faculté d'intervenir aussi souvent et aussi longtemps que vous jugerez bon ...」に見られるように、自律性が全く欠けている訳ではない。構文構成全般の観点からは、 $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  との関係は、例えば、直接目的  $N_1$  と与格  $\hat{a}N_2$  との関係 (cf.  $N_0$ -donner- $N_1$ - $\hat{a}N_2$ ) と比べて例外的に特殊であるということではないだろう。

5.4. 「 $N_0$ -V- $N_1$ - $[N_2/A_2]$ 」と「 $N_0$ -V-*que*- $N_1$ -*être*- $[N_2/A_2]$ 」の両構文の意味的違いについても一言述べておこう。前者の方が後者よりも、より直接的で、より作因的 (causatif) ニュアンスがあり、より遂行的 (performatif) であるとされる (cf. RUWET (1982), RIEGEL (1991))。

つまり、後者では接続詞 *que* を介して *que* に後続する要素がまとまって V に係っている。 $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  を V は直接には支配していないのである。しかも、 $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  は *être* により支配され繋がれている。これに対して前者では  $N_1$  と  $[N_2/A_2]$  を V が直接に支配していて他要素 (*que* や *être*) は介在していない。

これは意味解釈的違いにとどまらない。それ故、(1) 「 $N_0$ -V-*que*- $N_1$ -*être*- $A_2$ 」では可でも「 $N_0$ -V- $N_1$ - $A_2$ 」では不可の例 (Je croyais que l'auteur de Hamlet était Shakespeare – \*Je croyais l'auteur de Hamlet Shakespeare, Je juge qu'il est temps de partir – \*Je le juge temps de partir), (2) その逆の例 (Luc juge inutile qu'on travaille – \*Luc juge que qu'on travaille est inutile), (3) 「 $N_0$ -V-*que*- $N_1$ -*être*- $A_2$ 」は可だが「 $N_0$ -V- $N_1$ - $A_2$ 」は不可の動詞 (On démontre que l'âme est immortelle – \*On démontre l'âme immortelle), (4) その逆の動詞 (On appelle son fils Luc – \*On appelle que son fils est Luc), (5) 両方の違いが大きい例 (Le juge a jugé que Luc était coupable 「～と思う」 – Le juge a jugé Luc coupable 「判決を下す」), 等の問題が出てくるのである。

「 $N_0$ -V- $N_1$ - $[N_2/A_2]$ 」を「直接目的 ( $N_1$ ) 属詞 ( $N_2/A_2$ ) 構文」と呼称して「 $N_0$ -V-*que*- $N_1$ -*être*- $[N_2/A_2]$ 」と関係づける必要性はないということになる。

## 結論

頻度の高い構文としては、特に、「N-V-N」(108例:以下同様)、「N-V-*que*V」(111)、「N-V-N-[A/Vé]」(258)、「N-*être*Vé-[A/Vé]」(141) (「N-Vé-[A/Vé]を含む)が目立っている。つまり、直接目的一項のもの「N-[A/Vé]」の二項のものである。そして、受動態のもので特に形容詞 (A) を取るもの高頻度(226)も注目に値する。また、これらに匹敵する頻度のものとして「N-V-*de*Vinf-A」

(84) (「N-V-deVinf-A-pourN」を含む)がある。頻度は落ちるが「N-V-queV-A」(10)にも注目すべきである。「N-V-N-[A/Vé]」, 「N-V-deVinf-A」, 「N-V-queV-A」は直接目的の名詞句相当 (N, *deVinf*, *queV*) に注目すれば, 基本的に同じ構文であることが認められる。「N-V-queV-A」の低頻度は構文の複雑さからして当然であるが, 先行研究では注目されていないこと, そして, 「N-V-N-A」を *que* つきの *être* 文から派生することの可否という観点からしても注目に値する。*queV* が名詞句相当であるからこの構文は十分ありうる (直接目的の N が *queV* に置き換わるだけ) が, これが「N-V-que[*queV*]-être-A」からの派生であるとか, この構文のさらなる組み込みをも想定するというようなこと, 等にはあまり意味がないと考えられる。

次に高頻度のものとして, 「N-V-deN」(77), 「N-V-deN-parN」(78)がある。これは *juger* が, 直接目的と対比すべき *de* つきの間接目的をも組織するという点で重要である。間接目的 *deN* で「対象」が提示されると, これについての属性を述べる項が後続しうる, つまり, 意味解釈的な観点からは「間接目的属詞構文」とでも言うべきものがありえて, その実例が「N-V-deN-commeA」(1)として出てきた点は重要である。更に「N-V-à propos deVinf」(1)にも注目すべきである (cf. 間接目的の「\*N-V-deVinf」は不可)。このようなものは *juger* の構文としてこれまで指摘されていない。

頻度は低い, 次の三構文は「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-A<sub>2</sub>」との関連で重要である。「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-N<sub>2</sub>」(5), 「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-Vinf<sub>2</sub>」(4), 「N<sub>0</sub>-V-Vinf<sub>1</sub>」(3)。「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-Vinf<sub>2</sub>」と「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-[A<sub>2</sub>/N<sub>2</sub>」との共通性は述辞 V の右側における意味解釈的「主辞-述辞」の可能性である。「N<sub>0</sub>-V-Vinf<sub>1</sub>」では Vinf<sub>1</sub> の解釈上の主辞は N<sub>0</sub>なので N<sub>1</sub>は出てこないのである。「N<sub>0</sub>-V-Vinf<sub>1</sub>」も先行研究ではあまり注目されていない。

直接目的と属詞が分離不可ではないことを示す例「N-V-A」(1), 受動に比べて低頻度な「N-se-V-A」(18), 文脈により種々の解釈がありうる「Sujet-Pr」(37), 等も注目に値する。

上では, 便宜上, 伝統的に「直接目的属詞」とされる概念・用語を使用して論を進めてきた。しかし, 直接目的属詞構文とされるものも, 意味解釈を基本にして *être* との関連で一つにまとめるよりも構文型でまとめて行くのがよいというのが我々の展望である。

そうすると, 「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-N<sub>2</sub>」と「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-Vinf<sub>2</sub>」は一つ (動詞の右に名詞句相当を 2 項持つ) にまとめ, 「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-A<sub>2</sub>」, 「N<sub>0</sub>-V-deVinf<sub>1</sub>-A<sub>2</sub>」(*deVinf<sub>1</sub>* は名詞句相当), 「N<sub>0</sub>-V-queV<sub>1</sub>-A<sub>2</sub>」も一つにまとめられる。ただし, 「N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-sansN<sub>2</sub>」のような構文 (前置詞つきの間接項を持つ) は別になる。しかし, 特有機能の間接項を組織する構文を一まとめにすると, 「N<sub>0</sub>-V-deN<sub>1</sub>-commeN<sub>2</sub>」(動詞の右に前置詞つきの間接項を 2 つ持つ) のような構文も考察対象に入ってくる。

また, *juger* の「判断する」という意味と関係しているが, 判断の「対象」たる直接・間接目

的 (N, *de*N) だけではなく、判断の「根拠・基準」を表す間接項たる前置詞句 (*fr*) の存在も目立っていることに注目しよう。

このような展望によって全ての構文間の関係を構成項の機能（特有機能）と形（名詞，名詞句相当，形容詞，前置詞つき名詞，副詞）との観点から体系的に明らかにすることが出来よう。述辞の右に両立する 2 項は特有機能 (*fonction spécifique*) であるので両者の間には述辞動詞との特有な関係を通して種々の密接な関係が存在することは確かである。このような事実関係の中で、一部に見られる — それがかなり広範囲であるとしても — *être* 構文との意味解的関係のみを、種々の不都合を無視して特権的に強調しても、構文型体系全体を整理・分類し明確にする観点からすると、得られるところは少ないように思われる。

最後に、本研究の用例調査は Paris-Est Marne-la-Vallée 大学の IGM-LADL 研究所の構文解析プログラム *Unitex* と実例資料分類を利用させて頂いた。ここに記して謝意を表明する。なおこのまとめは一部日本学術振興会科学研究費基盤研究 (C) (課題番号 22520422) の補助を受けている。

### 参考文献

- BLANCHE-BENVENISTE, Claire (1991) « Deux relations de solidarité utiles pour l'analyse de l'attribut », DE GAULMYN, M.-M. et REMI-GIRAUD, S. (dir.) (1991) *A la Recherche de l'attribut*, Lyon, PUL, pp. 83-97.
- DUBOIS, Jean, Françoise DUBOIS-CHARLIER (1997) *Les Verbes français*, Paris, Larousse.
- ERIKSSON, O. (1980) *L'Attribut de localisation et les nexus locatifs en français moderne*, Göteborg, Acta Universitatis Gothburgensis.
- GREVISSE, Maurice, refondue par André GOOSSE (2001) *Le Bon Usage*, 13<sup>e</sup> éd. refondue, Paris, Gembloux, Duculot.
- GROSS, Maurice (1975) *Méthodes en syntaxe*, Paris, Hermann.
- HARRIS, Zellig S. (1962) *String Analysis of Sentence Structure*, La Haye, Mouton.
- MARTINET, André (1979) *Grammaire fonctionnelle du français*, Paris, Didier.
- MOIGNET, Gérard (1975) « Incidence et attribut du complément d'objet », *Travaux de linguistique et littérature*, XIII, 1, pp. 253-270.
- OLSSON, K. (1976) *La Construction verbe + objet direct + complément prédicatif en français (Aspects syntaxiques et sémantiques)*, Thèse d'université, Stockholm.
- REMI-GIRAUD, Sylvianne (1991) « Adjectif attribut et prédicat : approche notionnelle et morpho-syntaxique », DE GAULMYN, M.-M. et REMI-GIRAUD, S. (dir.) (1991) *A la Recherche de l'attribut*, Lyon, PUL, pp. 151-207.
- RIEGEL, Martin (1985) *L'Adjectif attribut*, Paris, PUF.
- RIEGEL, Martin (1991) « Pour ou contre la notion grammaticale d'attribut de l'objet : critères et arguments », DE GAULMYN, M.-M. et REMI-GIRAUD, S. (dir.) (1991) *A la Recherche de l'attribut*, Lyon, PUL, pp. 99-118.
- RIEGEL, Martin, Jean-Christophe PELLAT, René RIOUL (1994, 4<sup>e</sup> éd. 2009) *Grammaire méthodique du français*, Paris, PUF, pp. 419-433.
- RUWET, Nicolas (1982) « Attribut de l'objet et effacement d'être », RUWET, N. (1982) *Grammaire des insultes et autres études*, Paris, Éd. du Seuil, pp. 147-171.
- SALKOFF, Morris (1973) *Une grammaire en chaîne du français*, Paris, Dunod.

TESNIERE, Lucien (1959) *Éléments de syntaxe structurale*, Paris, Klincksieck.

*INDEX du DELAS.v8 et du Lexique-Grammaire des verbes*, LADL, Paris, 1997.

*Trésor de la langue française*, tome X, sous la dir. de P. IMBS, Paris, Klincksieck, 1983, pp. 786-789.

## La construction à attribut de l'objet direct en français : le cas du verbe *juger*

TSURUGA Yoichiro

Comme constructions du verbe *juger*, celles de : « N-*juger*-N (*On juge Luc*) », « N-*juger*-*que*V (*On juge que Luc est compétent*) », « N-*juger*-N-A (*On juge Luc compétent*) », « N-*être jugé*-A (y compris 'N-Vé-A': *Luc est jugé compétent*) » sont particulièrement fréquentes (N: nom, V: verbe, A: adjectif, Vé: participe passé). A droite du prédicat, il y a un argument [N/*que*V] ou deux arguments N-A. La construction « N-*juger*-*de*Vinf-A (*On juge inutile de travailler*) » est aussi assez fréquente (Vinf: infinitif). Il est compréhensible que la construction « N-V-*que*V-A » soit peu fréquente, vue sa complexité. Puisque *de*Vinf et *que*V sont des équivalents de syntagme nominal, on peut regrouper en une seule classe les trois constructions « N-V-N-A », « N-V-*de*Vinf-A » et « N-V-*que*V-A ». On peut avoir « N-V-*que*V-A » en remplaçant N par *que*V dans « N-V-N-A ». Il semble peu naturel de faire dériver « N<sub>0</sub>-*juger*-*que*V<sub>1</sub>-A<sub>2</sub> (*On juge inutile qu'on travaille*) » de « \*N<sub>0</sub>-*juger*-*que*-[*que*V]<sub>1</sub>-*être*-A<sub>2</sub> (\**On juge que qu'on travaille est inutile*) », comme on le fait quelquefois dans « N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-A<sub>2</sub> (*On juge Luc compétent*) ← N<sub>0</sub>-V-*que*-N<sub>1</sub>-*être*-A<sub>2</sub> (*On juge que Luc est compétent*) ».

La construction « N-V-*de*N (*On juge du tout*) » se rencontre aussi assez fréquemment. Cette construction est remarquable en ce qu'elle est distincte de « N-V-N ». L'« objet-thème » est mis en relief par la préposition *de*. Quand un « thème » est présenté, il est probable que son « propos » vient ensuite. La construction « N-V-*de*N-*comme*A (*On juge du tout comme novateur*) » est, bien qu'il n'y en ait qu'une seule occurrence, particulièrement intéressante, parce qu'en suivant le point de vue traditionnel fondé sur l'interprétation sémantique on serait obligé de parler d'« attribut de l'objet indirect ». Concernant cet objet indirect de « thème », remarquons aussi la construction « N-V-à *propos de*Vinf (*On juge à propos de changer de fleur*) ». (Cf. « *de*Vinf » de « N-*juger*-*de*Vinf-A » est un objet direct, et l'objet indirect « *de*Vinf » n'est pas accepté par *juger*.)

Bien que peu fréquentes, les constructions « N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-N<sub>2</sub> (*On juge le mariage une idée bouffonne*) », « N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-Vinf<sub>2</sub> (*On juge Luc avoir raison*) » et « N<sub>0</sub>-V-Vinf<sub>1</sub> (*On juge pouvoir figurer*) » sont aussi à remarquer. Traditionnellement la construction avec un infinitif (« N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-Vinf<sub>2</sub> ») est distinguée de la construction « à attribut de l'objet direct » (« N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-[N<sub>2</sub>/A<sub>2</sub>] »). Mais du point de vue de l'interprétation sémantique justement, il faudrait reconnaître une caractéristique commune de ces constructions : la prédication (du point de vue de l'interprétation sémantique) entre N<sub>1</sub> et Vinf<sub>2</sub>, d'une part et de l'autre entre N<sub>1</sub> et [N<sub>2</sub>/A<sub>2</sub>]. Dans « N<sub>0</sub>-V-Vinf<sub>1</sub> », la prédication en question serait entre N<sub>0</sub> et Vinf<sub>1</sub>, d'où l'absence de N<sub>1</sub>.

Remarquons enfin que les constructions « N-*juger*-*que*V-A », « N-*juger*-*de*N-*comme*A », « N-*juger*-à *propos de*Vinf » et « N<sub>0</sub>-*juger*-Vinf<sub>1</sub> », qui sont mentionnées ci-dessus, ont très peu fait l'objet de discussions dans les recherches précédentes sur les constructions du verbe *juger*.

Il n'est pas nécessaire d'essayer d'identifier la construction dite « à attribut de l'objet direct » en la faisant dériver de celle avec *être* précédée du conjonction de subordination *que*. La construction « N<sub>0</sub>-V-N<sub>1</sub>-A<sub>2</sub> » est suffisamment caractéristique et la relation entre N<sub>1</sub> et A<sub>2</sub> est justement assurée par le prédicat *juger* qui appartient à cette sous-classe de construction. La relation entre deux fonctions spécifiques N<sub>1</sub> et A<sub>2</sub> compatibles n'est pas particulièrement exceptionnelle par rapport à celle existant, par exemple, entre l'objet direct N<sub>1</sub> et le datif àN<sub>2</sub> (*On donne un livre à Luc*) qui sont aussi compatibles autour d'un prédicat.